



# 滯電

2001. 4 No. 22



## 「まっち」

大阪大学は2001年に創立70周年を迎えます  
創立70周年記念イメージキャラクター

## 目次

会長ごあいさつ (藤井克彦) .....	1	会員の方々のご活躍 .....	21
講演会からの話題 .....	2	留学生の声 .....	24
話 題 .....	5	教室情報 .....	26
母校のニュース .....	9	卒業者・修了者氏名 (就職先/進路) .....	28
研究室紹介 .....	14	滯電会役員 .....	30
退官された先生方の近況 .....	16	同窓会だより .....	32
卒業生の近況 .....	17	滯電会だより .....	34

大阪大学工学部電気系同窓会

## 滯電会

ホームページ : <http://www-reiden.ise.eng.osaka-u.ac.jp>

平成 13 年 4 月

## 第 2 回 滯電会 講演会 および 平成 13 年度 総会 ・ 懇親会 の ご案内

滯電会 会長 藤井 克彦

拝啓 陽春の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、滯電会では、平成 13 年度 総会 ならびに 懇親会 を開催いたしますが、それに併せて、本年 1 月に開催いたしました第 1 回の講演会に引き続き、第 2 回の講演会を下記の通り開催いたします。この講演会は、これまでに行っておりました母校現役の先生による 30 分間のスピーチに代わり、現在ご活躍中の滯電会会員の方々から最新の技術課題について詳しく解説いただくことを趣旨として企画したものです。例年より開始時間が 1 時間ほど早くなりますが、多数の皆様の参加をお待ちしております。

昨年は懇親会に 200 名近くの卒業生や先生方が出席され大盛況でした。母校の先生方を交えて、先輩、後輩、同期生の方々が一同に会して旧交を温めつつ、情報交換を行う絶好の機会でございます。また、総会・懇親会に合わせて日頃ご無沙汰の同期会を企画されるのもよろしいかと存じます。

皆様お誘い合わせの上、多数ご参加下さいますようご案内申し上げます。

敬 具

### 記

日 時：平成 13 年 6 月 1 日（金）午後 5 時～9 時

会 場：大阪梅田・新阪急ホテル（大阪市北区芝田 1-1-35：電話 06-6372-5101）

次 第：1. 講演会 午後 5 時～6 時 30 分 会場「花の間」

「PHS を用いた人の位置検索技術の展開」

神島 博昭 氏（通信・昭和 32 年卒、(株) エースケイコンピュータ代表取締役）

「クリーンエネルギー 水素の生成システム」－電気工学からの発想－

松浦 虔士 氏（電気・昭和 35 年卒、大阪大学名誉教授）

2. 総 会 午後 6 時 30 分～7 時 会場「花の間」

3. 懇親会 午後 7 時～9 時 会場「紫の間」

会 費：学部卒業平成 4 年以降の方 7,000 円

学部卒業平成 3 年以前の方 10,000 円

会費は当日申し受けます。懇親会のみのご参加も歓迎いたします。

準備の都合上、出欠のご返事を同封のはがきにて来る 5 月 21 日（月）までにお知らせください。

### 表紙について

表紙の“滯電”は、熊谷信昭大阪大学元総長（通信・昭和 28 年旧制）の揮毫によるものです。大阪大学創立 70 周年記念イメージキャラクタ「まっち」は豊中キャンパス内、待兼山で出土した化石「マチカネワニ」がモチーフです。

## 会長ごあいさつ

### —21 世紀と滯電会—

滯電会の皆さん、お元気でご活躍のことと拝察申し上げます。本会の会長をお引き受けして以来、一年半の月日が経ちました。その間、会員ならびに役員の皆様のご協力を頂き、会の発展のために微力を尽くして参りました。皆様のご協力に心からお礼を申し上げます。

《いよいよ 21 世紀が始まりました》

「20 世紀は戦争と動乱の世紀であった。21 世紀こそ平和と安定の世紀にしなければならない」と云われています。

20 世紀は確かに戦争と動乱の時代でしたが、20 世紀だけが戦争の時代だったわけではありません。人類は世紀の初めから争い続けてきました。人類が誕生した当初は自然の脅威から身を守るため、自然を相手に戦い続けてきました。人類が豊かさを手に入れてからは、その豊かさを奪い合って争ってきました。20 世紀は科学技術が進歩したため、過去の世紀で殺しあったトータルの数を凌ぐ大量の殺戮を行った世紀でした。

21 世紀を平和と安定の時代にしたいと願うのは万人の一致するところでしょう。しかし、これを実現するためには、解決しなければならない諸問題が山積しています。

例えば、21 世紀半ばには地球上の人口は 90 億人になるだろうと試算されています。また、世界中で効率よく食糧を生産し、適正に配分したとしても、生き延びることのできる人口は 70～80 億人ぐらいだと云われています。

《食糧が足りなくなると戦いが始まります》

われわれ人類は人口の増大と、エネルギーの大量消費、環境破壊に向って突き進んでいます。このままでは人類は破滅に向っていることは間違いないでしょう。21 世紀初めに、できるだけ早く、この状況を修正する必要があります。それには科学技術の力が頼りです。しかし、科学技術といっても、『無から有が生じる』訳ではありません。全人類の英知を結集する以外に解決の道はないでしょう。



滯電会会長 藤井 克彦  
(電気・昭 28 旧)

《昨年度の滯電会の歩み》

昨年 6 月 2 日の滯電会総会、懇親会には 200 名余りの会員の方々がお集まりになり、普段めったにお目にかかれない同窓の方々と、旧歓を暖めることができました。

また、東京、東海、北陸、九州、中国各支部では、それぞれ企画を凝らした支部総会を開催されました。いずれも本部から参加させて頂きました。支部の皆さんが、お元気で活躍しておられる様子をお伺いし、大変心強く思いました。その節はお世話になりました。

11 月 2 日には本部主催で、青山高原に設置された風力発電設備を見学いたしました。21 世紀の電力エネルギーの一部を担う候補として期待されている設備でした。現地に向うバスの中で、関西電力の方から、小型分散電源を含んだ電力系統についてのお話を聞いてから、現地を見学しましたので、滯電会らしい充実した催しとなりました。

また、年末には滯電会会員名簿を改訂出版いたしました。3 年に一度の作業ですが、関係者の並々ならぬご努力によって無事完成し、配布しました。配布先は、誠に申し訳ありませんが、会の経理の都合上、滯電会会費納入者に限らせて頂きました。

本年 1 月 19 日には、21 世紀最初の企画として講演会を開催いたしました。21 世紀 100 年を視野に入れた話題で、演題は『地球シミュレータ、地球再生のシナリオ』でしたが、100 名を超える聴衆で大変盛会でした。

《21 世紀における滯電会》

先に述べましたように、21 世紀初頭にあたり、できるだけ早く、全人類の進むべき方向を鮮明にしなければなりません。滯電会の皆様は、高い専門知識と豊富なご経験を生かして、地球上の環境、エネルギー、食糧問題に取り組んで頂きたいと思っております。滯電会も、専門家集団である特徴を生かした活動を展開して行きたいと考えております。

## 講演会からの話題

### 21世紀 事始め

#### 「平成12年度（第1回）澁電会講演会」 開催される

澁電会では、世の中の関心を集めている最新の話  
題について、第一線でご活躍の方々にご講演を願  
い、会員の皆様が気軽につどい、異業種間の情報交  
換を行えるような場を提供することを目的に平成12  
年度より新企画として講演会を開催することにいた  
しました。

第1回講演会は平成13年1月19日（金）16時～  
18時、中央電気倶楽部の5階ホールで119名の参  
加をえて実施されました（後掲「澁電会だより」の  
「講演会」参照）。今回は21世紀の幕開けとして、  
今後100年の環境とエネルギーの動向を探る話題  
を提供いたしました。

今後、総会の際をも含め、講演会を開催してゆく  
予定ですので会員各位、周囲の方々もお誘いあわ  
せのうえ奮ってご参加ください。

以下に第1回講演会の概要を写真を添えてご紹介  
いたします。

テーマ：21世紀の人間生存圏の環境とエネルギー

古代の農業革命、近代の産業革命を通じて地球表  
面に広がった人類の生存圏は21世紀には成層圏、  
深海、さらには太陽系まで広がるだろうと予想さ  
れています。この生存圏の環境を保全しながら人類  
社会が発展する道を探ることが、これからの科学技  
術の役割であると思われます。そのためにはまず最  
新の科学技術に基づいて地球のダイナミクスを理  
解し、それに基づいてエネルギーの需給予測を行  
う必要があることは容易に想像されます。本講演会  
では世界の最先端を歩んでおられるお二人の講演  
者に地球シ



友田 利正 氏のご講演

ミュレータとエネルギー需給のシミュレーションに  
ついての2つのお話を伺いました。

プログラム：

講演1. 地球シミュレータ計画とそのインパクト

講師：地球シミュレータ研究開発センタ  
谷 啓二 氏

講演2. 地球再生のシナリオ —世界エネルギー  
モデルによる地球温暖化対策の評価

講師：(財)地球環境産業技術研究機構  
友田 利正 氏



講演会風景



谷 啓二 氏のご講演



会場にて：事務局（安井さん）と  
企画担当幹事（疇地・西村両幹事）ら

## 地球シミュレータ計画とそのインパクト —スーパーコンピュータで地球の未来を映し出す—

地球シミュレータ研究開発センター  
主任研究員  
谷 啓二



科学技術庁（現文部科学省）は、基礎科学研究、観測システム、計算機シミュレーションの三位一体で地球環境変動予測研究を推進するプロジェクトを平成9年度より推進している。このプロジェクトの一環で、「地球シミュレータ」と称する、完成時には世界最速となるウルトラコンピュータを開発している。

地球シミュレータの主要な応用分野は、グローバルな地球温暖化やローカルな気象災害予測等の大気・海洋科学と、地殻・マントルのダイナミクス解析や地震発生過程シミュレーション等の固体地球科学が挙げられる。これらの応用のため、地球シミュレータは、CPUと主記憶のいずれも、現用の計算機の少なくとも1000倍の性能が要求されている。

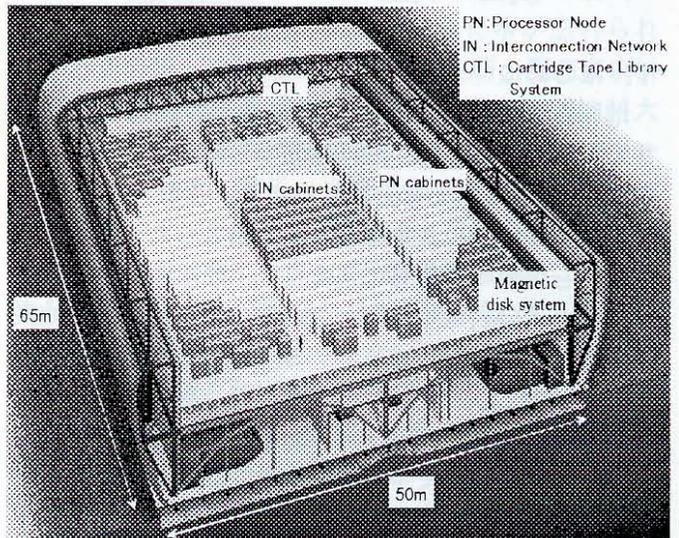
この高性能を実現するため、地球シミュレータは数多くの計算機を並列に高速のネットワークで結合した並列計算機とならざるを得ない。並列計算機としては、要素計算機としてキャッシュベースのマイプロセッサを用いるスカラ超並列計算機（米国型）とベクトルプロセッサを用いるベクトル並列計算機（日本型）が考えられる。米国大気研究センターでは、彼等の大気大循環モデルを用いて、種々の計算機で実効効率（ピーク性能に対する実効性能比）を調べた。その結果、スカラ超並列計算機では、実効効率は高々7%程度であったのに対し、ベクトル並列計算機では30%以上の高効率が得られた。これらの結果から、我々は、地球シミュレータの計算機方式としては、ベクトルプロセッサを要素計算機とするベクトル並列計算機を採用する。

地球シミュレータのハードウェアの仕様は以下のよう

- ・アーキテクチャ : 分散主記憶ベクトル並列計算機
- ・性能 : ピーク性能 40 TFLOPS
- ・総主記憶 : 10 TB.
- ・結合ネットワーク : 単段クロスバネットワーク

従来のベクトル計算機は、数十のLSIチップから構成されていたが、地球シミュレータでは初めて、ワ

ンチップ・ベクトルプロセッサを開発し、省スペース、省エネルギー、省コストシステムを実現する。計算機本体は、現在製作中であり、13年度半ばから据付調整にはいる。全体システムは、2002年2月末に完成の予定である。下図に地球シミュレータとそれを収納する建家の鳥瞰図を示す。建家は50m×65mの大きさである。



地球シミュレータ計画のインパクトとしては、

- ・地球環境変動予測に対するインパクト、
  - ・日本の高度計算科学に対するインパクト、
- が期待される。

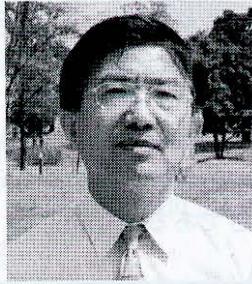
前者では、国民の生命・財産の保全のための台風進路予測、集中豪雨予測等の気象災害予測の高精度化、農林水産業やエネルギー供給計画等に重要な冷夏、暖冬予測等の中短期の気候予測の高精度化、さらには、人類全体の持続的発展の指針に不可欠な地球温暖化等の長期の気候変動予測の高精度化が挙げられる。この中で、中短期の気候変動の予測と気象予測には、日本全体で年間数千億円から数兆円の経済効果が期待されるという試算もある。

後者では、日本型並列計算機であるベクトル型並列計算機（技術）の維持・発展が挙げられる。スーパーコンピュータには膨大な開発費が必要とされるが、それを必要とする計算科学のマーケットは開発費に見合うほど大きくはない。このため、官主導の開発により両者のギャップをブリッジする必要がある。米国では、ASCI計画やIT<sup>2</sup>計画で米国型並列計算機であるスカラ超並列計算機の開発を官主導で進めている。日本においては、地球シミュレータ計画がその一翼を担っている。

## 地球再生のシナリオ

—世界エネルギーモデルによる地球温暖化対策の評価—

(財)地球環境産業技術研究機構  
主任研究員  
友田 利正



### 1. はじめに

地球温暖化は21世紀の人類の最大の問題の1つと言われている。現在、地球表面の平均温度は産業革命前と比較して約0.6℃上昇している。これは、地球表面での人間活動による熱発生量が増大したためではなく、化石燃料の燃焼等によるCO<sub>2</sub>ガスおよび他の温室効果ガスの大気中濃度が上昇しているためで、地表に対する保温効果が強まってきていることによる。実際、大気中CO<sub>2</sub>濃度は1800年以降急激に上昇している。また、最近のIPCC\*の報告書は、地球温暖化の人類への影響として平均気温が3℃以上上昇すると世界はどの地域も例外なく悪影響を蒙るとしている。

最大のCO<sub>2</sub>排出源はエネルギーシステムであり、CO<sub>2</sub>濃度上昇抑制のためにエネルギーシステムをどのように変えていくのがよいか、現在開発が進められているCO<sub>2</sub>の処分技術はいつからどの程度導入すべきかなどに対して解答を用意していかなければならないが、問題が大規模、複雑、長期的であるため、モデルによる整合性のある解析・評価が必要である。

\* IPCC: Intergovernmental Panel on Climate Change (気候変動に関する政府間パネル)

### 2. 世界エネルギー・環境モデルDNE21の概要

DNE21モデルは、エネルギーシステム、マクロ経済、気候の各モデルを統合した最適化型のモデルであり、世界を10地域に分割し、2000-2100年の100年間を評価対象期間(最適化計算期間は2150年までの150年間)とし、各種制約条件の下でこの期間全体の最適解が求められる。

このモデルはエネルギーシステムやCO<sub>2</sub>対策技術の評価を主たる目的に開発されたもので、エネルギーシステム、エネルギー変換プロセスやCO<sub>2</sub>対策技術が特に詳細にモデル化されている。1次エネルギーは、天然ガス、石油、石炭、バイオマス、水力・地熱、太陽光、風力、原子力の8種類に、最終需要は、気体燃料、液体燃料、固体燃料、電力の4部門にモデル化し、天然ガス、原油、合成油、石炭、メタノール、水素、CO<sub>2</sub>の7種類の品目は地域間取引がなされるとしている。

また、CO<sub>2</sub>処分技術として、石油増進回収、帯水層注入、廃ガス田注入、海洋貯留の4つの技術をモデル化している。

### 3. IPCCによる将来基準シナリオ

DNE21モデルにおいて、各地域の人口およびGDPとエネルギー需要の基準値は外部から入力する必要がある。2000年以降のこれらの量の想定は最新のIPCCの特別報告書によった。今回の解析は特別報告書で示されている4つのシナリオのうちのB2シナリオについてもものである。このB2シナリオでは世界人口は緩やかな成長を続け2100年には約100億人に達し、経済は中位の発展、技術変化は緩慢だが広範囲に発生、環境対策は地域的なものにとどまるとの想定を行っている。

### 4. シミュレーション — ケース設定とその結果

上記IPCCのB2シナリオをもとに、温暖化対策のとられない自然体ケースと大気中CO<sub>2</sub>濃度を550ppmv以下に安定化するケースについて、消費の最大化を目的としてモデル解析を行った。550ppmvというCO<sub>2</sub>濃度レベルは、産業革命前のレベルの約2倍の濃度であり、平均気温上昇が2.5℃程度とされており、許容される最大濃度の目安とされることの多いレベルである。

自然体ケースでは、1次エネルギー内での化石エネルギーの使用割合が21世紀の全期間にわたり80%を越え、2100年には大気中CO<sub>2</sub>濃度が約780ppmvとなり、平均気温上昇が約3℃、2150年には平均気温上昇が4℃を越えることになり、破局にいたることが想定される。

550ppmv以下に安定化するケースについては、2100年には化石エネルギーの使用割合は約50%とする必要があるが、平均気温上昇は2150年まで2.5℃以下でほぼ安定する。これを達成するには、省エネの推進(21世紀初頭から)と、化石燃料内での低炭素燃料への転換およびバイオマス・太陽光・風力・水力・地熱の再生可能エネルギーの使用(2030~2040年から)、それに2050年以降にはCO<sub>2</sub>処分技術の導入が望ましい。原子力の利用はいったん減少するが2050年頃から再度拡大すべきとの解が得られた。

### 5. まとめ

世界エネルギー・環境モデルDNE21を用いて地球温暖化対策の解析・評価を行った。

省エネの促進、化石燃料内での低炭素燃料への転換、非化石エネルギーとCO<sub>2</sub>処分技術の積極的導入など総合的な取り組みにより、気温上昇を許容できる範囲内に安定化することが可能との結論を得た。

## 国際化雑感

三重大学工学部  
電気電子工学科教授  
堀 孝正  
(電気・昭36)



e-mail: hori@hori.elec.mie-u.ac.jp

日本の国際化は遅れている、学会の国際化をもっと促進すべきであるなど、「国際化」という言葉は身近でよく使われる。「国際化」とは一体何を言うのであろうか。日本人の海外への渡航者は年間1000万人を越えている。車、テレビなどの工業製品、電子部品など、莫大な量を輸出している。一方、食糧自給率は約40%であり、不足分の約60%は外国からの輸入に依存している。エネルギー資源の輸入依存率も原子ウランを含めると、約95%となる。インターネットで情報は瞬時に世界を行き交っている。このように国内外を人と物と情報が相互に行き交いしているのに、どうして日本は国際化に遅れていると言い、また言われるのであろうか。自分が経験した学会の国際化について感じたことを述べてみたい。

学会の国際化については、「日本の技術情報が欲しいのであれば、あるいは日本の技術者と交流したいのであれば日本語を勉強し、日本の学会の会員になり、学会の大会に出席し、日本語で論文発表すればよい。自分達は苦勞しながら、英語を勉強し、外国の学会の会員になり、大会に出席している。」外国人が日本人と同じように努力すればよい、との意見が昔からあった。しかし、日本が世界の中で技術立国として生きていくためには、自分達の努力によって作り上げた場や機会を世界の人々が利用しやすい形で広く提供していくことがなければ、少なくとも世界の人々から「尊敬」は得られず、いつまでも人の物を利用するのが上手なだけの「ただ乗り国」であるとの避難は避けられないであろう。外国の学会を利用するのであれば、外国の学会の年会費を払い、学会に積極的に参加し、学会の運営に汗を流すことも必要である。

今から23年前の1978年カナダのトロントでIEEE(米国電気電子学会)/IAS(Industry Applications

Society)の年次大会に出席した折、米国の大会役員から「貴方達が米国を訪問できるのは、我々が大会を開催しているからである。自分達が日本を訪問したいと思ってもその機会がない。是非我々が日本を訪問できる機会を作って欲しい。」と言われた事が忘れられない。この時、原島先生(当時東大生研、現在東京科技大学学長)、難波江先生(当時東芝、現在長岡技科大名誉教授)と小生(当時日立)が中心となって、パワーエレクトロニクス関係の米国の研究者を招いてIAS大会開催ホテル「ロイヤルヨーク」の地下のレストラン「紅花」で会食し、日本で国際会議を開くことを約束した。それが元で開催された国際会議が、1983年のIPEC-Tokyoである。これが電気学会が最初に主催した国際会議となった。

IPEC-Tokyoには、外国から数多くのパワーエレクトロニクスの専門家が参加し、学会で、また、日本の代表的な電機会社を訪問し、日本の技術者、研究者と交流した。その結果、日本の技術が高く評価されることになり、我々、日本人を見る目も違ってきた。英語は下手だが、高い技術を持っていることが認識された。日本での国際会議は、我々だけでなく、外国の専門家にも、お互いの理解を深めるのに大いに役立った。その後、色々な国際会議が日本で開催されるようになったが、毎年というわけではないので、欧米の人達はもとよりアジアの国々の人達にも参加してもらえるよう小生が中心になって、電気学会の産業応用部門や計測自動制御学会の国際セッションをスタートさせた。日本の学会が日本からの最先端技術情報の発信の場と機会を世界に提供して行く事が大切であると考えたからである。IEEE/IES(Industrial Electronics Society)の会員拡大や技術担当の副会長や国内外の国際会議の役員、実行委員長や論文委員長も経験させてもらった。英語が大の苦手なのに、その役を何とか果たせたのは、その役をする事によって、外国の人々を理解したい、自分の心の壁を少しでも開きたいとの気持ちがあったからだと思われる。自分にとっての国際化とは、相手にgiveできる技術力を持つこと、相手からtakeするために、外国の人々を理解する気持ちを持つこと、give and takeするために自分の心の中の壁を取り除くこと、すなわち自分の心の中に渦巻く相手に対する優越感、劣等感、差別感、先入観などを取り除くことであると思っている。「国際化」とは、本当に難しいことである。

## 実用の段階に入った 導電性高分子とノーベル賞

大阪大学大学院工学研究科

電子工学専攻教授

吉野 勝美

(電気・昭39、M41、D47)

e-mail : yoshino@ele.eng.osaka-u.ac.jp

高分子は電気を通さない絶縁体であると考えられてきたが、この従来の常識を破って、単結合と二重結合が繰り返し交互に長く繋がった構造の高分子はドーピング（不純物の添加）によって電気を良く通す金属に変わること、即ち、可逆な絶縁体-金属転移を発見し、“導電性高分子の科学と技術”という新しい分野を開拓したことに対して、20世紀最後のノーベル化学賞が筑波大学名誉教授白川英樹博士、米国ペンシルバニア大学教授マクダイアミッド (Alan G. MacDiarmid) 博士、米国カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授ヒーガー (Alan J. Heeger) 博士に授与された。この3教授と同じ分野の研究をするものとして、また個人的にも親交のあるものとして大変な喜びである。

特に、絶縁体-金属転移の発見が最初に報告されたのは1977年ニューヨークでの国際会議であったが、当時はこの分野の研究者は少なく、この会議に出席していた筆者は以来白川博士とは色々なことで親しくご一緒することになったのである。

また、これがきっかけになって導電性高分子の研究がいよいよ活発となり、1986年京都において“合成金属の科学と技術に関する国際会議”が開かれることとなったが、この会議は白川英樹教授と京都大学の山邊時雄教授が議長、筆者は総務幹事、実行委員長として開催し大きな成功を収めた。

ところで、今回のノーベル賞の受賞が全く予想外のものであるかのような報道がなされたりもしたが、実はそうではない。実際、1991年にはスウェーデンにおいてノーベル賞関係者も含めて40人弱が出席して、ノーベルシンポジウムが開かれた。この時、筆者ら参加者は近々この分野でノーベル賞が出るだろう、恐らく白川、マクダイアミッド、ヒーガーの3教授が受賞するもの

と確信し、以来心待ちしていたというのが実際である。

これまで導電性高分子の開発が進む一方、種々の機能応用が提案された。その中で、開発が先行したのが電解コンデンサであり、極めて優れた性能から携帯用電子機器に不可欠のものとなり、年商一千億円以上の大きな市場を形成するまでになっている。

また、導電性高分子 EL デバイスは自発光型で、高速、フルカラーが可能、更にフレキシブルでコスト的にも有利なことから実用化に向けて大きく開発が進んでいる。また、帯電防止、電磁シールドなど様々な所で導電性高分子が使われ始めようとしている。更に、導電性高分子レーザー、超電導体、太陽電池などの研究も進展している。

実は、逆に云うと、導電性高分子がエレクトロニクスなどで応用され始め非常に重要なものとなって定着し、更にその将来性が極めて高いことが明らかになってきたことが今回のノーベル賞の実現をもたらしたと云う一面もあると考えられる。

筆者自身、大学学部・大学院の講義で学生に毎年、白川先生がノーベル賞を受けられる可能性が高いことを話していた。

20世紀の最後にこの受賞があったことは、この分野のみならず、自然科学、科学技術、産業に関わるものにとっては、21世紀に夢を抱かせ、未来を明るくするものとして大変喜んでおり、あらためて3教授におめでとうと共に、有り難うの感謝の意を表したい。



右：白川教授 左：吉野

(ノーベル賞受賞直前)

## 欧州の技術マインド

三菱電機 (株)  
産業システム研究所  
主管技師長  
打田 良平  
(電子・昭42)



e-mail: uchida@con.sdl.melco.co.jp

ギリシャ風の彫像達に彩られ整然と並ぶ堅牢な外観の建築物、民家の窓辺を飾る花々、モーツァルトの調べ、こういう風景を我々は欧州という言葉から連想し、欧州とは、いわゆる西欧文化・文明の中心地というイメージを持つのではなからうか。

他方、電気系工学を含む近代科学については米国が先進地域だと一般に考えられて来たと思う。しかし私がドイツを拠点に昨年来、勤務先と欧州の大学や研究機関との連絡業務に就いて以来、この考えを改めた。すなわち電気系では、欧州が日米を超える技術水準にあり、その取組み方法には学ぶべきことが多いことを知った訳だが、まずは以下、大学を主体に欧州の電気工学の一端について話してみたい。

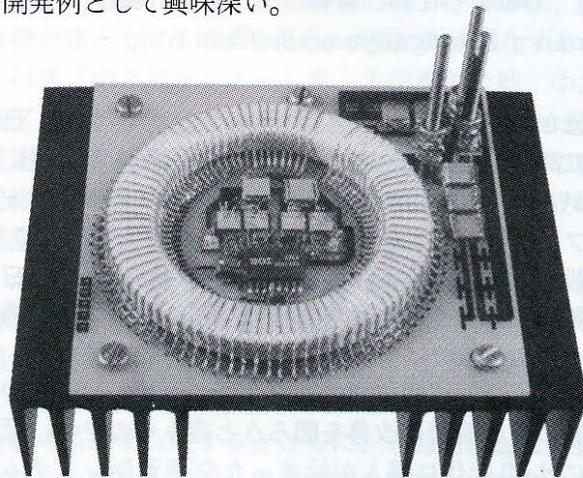
欧州の主要大学を訪ねると、直流発電機はベルギーの発明で交流電動機はドイツだとか、アインシュタインがここで教鞭をとったなど、近代文明の創始地域としての自負が関係者に強いことが判る。最近では交流電動機の高性能制御を実現するベクトル制御法の発明や直流送電技術の開発、等がその話題に上ってくる。

さて周知の通り、欧州には世界の電機業界をリードする巨大な複数企業が存在し、最近では米国はもとより、日本を含むアジア全域でも活躍の場を拡げつつある。トップ企業の条件の一つは技術で先手を取り続けることだが、彼等は私企業の限界を克服すべく、主要大学との産学協同体制の維持と強化に努め、大学への設備寄付、主要技術の研究委託や共同研究の実施など、日本での状況に比較して格段に大規模かつ、緊密な関係を保っている。

ところで今、米国では商業主義が蔓延し、欧州でも世界は経済原理を基盤とする価値観に支配されているかの感を覚える。大量生産技術を生み、一般大衆への高付加価値製品の普及を可能ならしめた米国の、20世紀社会への貢献は偉大であったが、最近はその根底

にある経済至上主義が行過ぎている様に思う。

しかしこの状況下でも欧州では、商業主義に左右されない地道な研究開発姿勢を失っていない様だ。すなわち長期的に見れば、欧州は理学的な基礎基盤技術に優れ、また建築や彫刻に見る如く幾何学的センスに優れた民族の地域だと思う。電気工学分野でもその特質が随所に現れ、例えば英国のバーミンガム大で開発中の数MHzで動作する下図に示すスイッチング電源は、電力素子と変成器の配置を構造面から入念に最適化した開発例として興味深い。



人類が未来社会を真剣に考え始めた昨今、欧州が改めて注目されている。その典型例が風力発電で、ドイツ北部やその近郊を乗物で移動する際、必らずの様に見かけるのが発電用風車である。近く見えて中々近づかず、意外に大きい事を実感するが、環境保護の観点から、化石燃料による発電より高価についても、再生可能エネルギーの利用技術実用化を図ろうという民族性の現れである。この思想は有名なごみ分別システムの採用など、あらゆる分野に及ぶ。

また彼等は住民の集まる都市施策には腐心している様で、ドイツでは荒廃したベルリン近郊に植林を施し、森を復活させた。また逆風下の原子力技術を研究する公的研究機関FZK (in Karlsruhe) は、民家から離れた森の中に建設された。森の破壊は最小限度に留めつつ、その復活が可能な方策を織り込んだという。

多民族、多文化が共存し民主主義を実践する欧州人の基本姿勢は個人の尊重にあらう。その原点から出発して社会倫理、生活空間の構築、多様なライフスタイル、等が長時間をかけて形作られ、現代の欧州が出来上がったと認識できる。この特性は特に地球規模での今世紀以降の諸問題解決に必要な、重要な条件の一つであり、我々も色々と参考にしたい。

## ITS (Intelligent Transport Systems)

ITS アメリカ

インタナショナルフェロー

熊谷 靖彦

(電気・昭44、M46)

e-mail : kumagai-yasuhiko@sei.co.jp



皆さん、ITSという言葉をご存知でしょうか。日本語で高度道路交通システムなどと呼んでいますが、小生が1998年1月にITSアメリカのインタナショナルフェローとして赴任した当時は、所謂“村言葉”で一般の人には馴染みが薄かったのですが、その後日本の新聞でも時々見掛けるようになり、徐々に市民権を得つつあるのではないのでしょうか。一言で言うと、最新の電子情報通信技術を道路交通に適用し、事故や渋滞等の交通問題の改善を図ろうと言うものです。歴史的には70年代に導入が始まった交通管制システムがあります。これはコンピュータを使い、道路の混雑度に応じて信号機のタイミングを制御したり、道路情報板や路側ラジオで情報提供するもので、過去日本は積極的に開発及び導入を行ない、大きな効果を発揮しております。更に、日本を代表するITSとして、1996年からサービスが始まったVICSがあります。車載ナビゲーション上に渋滞や事故、工事規制或いは公共駐車場の満空状態等の実時間道路交通情報を表示提供するシステムで、既に200万台以上の車で利用されております。又、最近のシステムとして実用化試験中の自動料金徴収システム、ETC、があります。日本はこのITSに関して世界の最先端を走っており、最近では多くの方々が関係するようになって来ており、企業も今後の市場として注目しております。昨年11月にイタリアのトリノで開催されたITS世界会議の参加者総数約3300人中、1/3は日本からで、併設された展示でも日本の自動車会社及び電気通信関係会社が意欲的な出展を行ってまいりました。只、本来ITSはニッチな世界で、道路交通問題は道路建設等にて改善すべきものをその代替的な手段として考えられたと言えます。そこで、最近の加熱振りはやや当方としては冷めた感で見えており、何れ一度ブームが去り、再度見直しや淘

汰が起こり、その後に第2次ITSの到来になるのではないかと考えております。現に、あまり事情を飲み込まず、日本の相乗り或いは焦燥感から、ITS関係の組織を立ち上げたが、なかなか商売に結び付かなく、撤退したと言う話を最近聞きます。一時、高速道路で自動運転が出来るなどと言う夢が語られましたが、実用化となると非常に大きな障害が予測され、今はあくまで運転者の安全運転支援へ方向変換したシステムの開発を進めています。ところで、小生大学を卒業後住友電工にお世話になり、3年前に会社から米国のITSアメリカに派遣され、以来現在まで事務所のあるワシントンに駐在しております。大学時代の小生を知る先生方や同窓生、研究室の皆様方は、あの男が米国で何をしておるのか、果たして役に立っているのか、日本の恥じをさらしているのでは無いか、等々ご心配でしょうが、何とか元気に頑張っております。さて、米国のITSですが、実は大幅に日本に遅れを取っています(いました)。見方を変えれば必要でなかったと言う方が正解かも知れません。広大な土地にハイウェイを作れば良かった訳です。しかし最近はそのも言えなくなり、都市部も年々渋滞が激しくなり、かつ事故も多発しております。そこで1990年米国は系統的なITS推進(個々には上述の交通管制システムのような導入が始まっていた)を決め、裏付けとなる法律も整備し、推進団体としてITSアメリカ(当初はIVHSアメリカ、VはVehicle、HはHighway)を設立しました。そしてITS世界会議開催を日本及び欧州に声を掛け、その後各地でITSの推進に拍車が掛かった経緯があります。米国は約10年に及ぶ研究開発の時代から、現在は実用化へと本格導入が始まろうとしております。ITS推進の中心となるのがITSアメリカで、DOT(運輸省)の関連団体で、日本人2名(当方と他一人)を含め約40名のITSの専門家が勤務しており、官学民一体となった委員会や講習会、更には調査等を中心に活動しております。当方の使命は日本及びアジアと米国の掛け橋と成るべく、種々の調整や、相互情報発信等行ない、かつ個別のテーマとして開発途上国、特にアジア各国のITSの導入に向けた調査を担当しております。ITSは道路と車という今まで土木及び機械が中心の世界から、電気電子通信が中心になるという大きな変化をもたらそうとしております。濔電会の皆様にも当方がお役に立つ事があればEmail頂ければ出来るだけご意向に添いたいと思っております。

# 母校のニュース

## 大阪大学創立 70 周年を迎える

白川 功 (電子・昭 38、M40、D43)

総長補佐 (情報システム工学専攻・教授)

懐徳堂 (1724 年創立) と適塾 (1838 年創立) に源を發し、旧帝大として 1931 年に創立された大阪大学は、創立 70 周年を迎えます。その記念式典や記念講演をはじめとする多彩なイベントが 5 月 5、6 日の両日、大阪国際会議場 (リーガロイヤルホテル隣) で開催されます。

異色ある呼び物として、まず、「夢ワールド次世代展」が挙げられます。ここでは、CG による「バーチャル懐徳堂・適塾」、「偉才ー手塚治虫の作品展」、「阪大卒業生 70 人展」、小・中・高生による「昆虫精密画コンクール展」、「ロボカップ」などが行われます。もう一つの呼び物は、関西フィルによる記念コンサートです。ワーグナー「ニュールンベルグのマイスタージンガー」前奏曲、釜洞裕子 (ソプラノ)、荒田裕子 (メゾソプラノ)、松本薫平 (テノール)、井上敏典 (バリトン) による「椿姫」、「トスカ」、「魔笛」などの歌曲、ラベル「ボレロ」やベートーベン交響曲第 9 番 (合唱

つき) 第 4 楽章「歓喜の歌」が演奏されます。なお、プログラムを下表にまとめております。滞電会員の皆様方には、母校のこのビッグイベントに是非ともご参加賜りたくお願い致します

この催しと平行して、わが阪大のモットーとしての「地域に生き世界に伸びる」をより積極的に実践するための事業として、実践的なビジネススクールやロースクール、あるいは情報技術 (IT) と生命科学などの社会人向け先端科学技術教育の場、さらには、産学連携の場として活用するため、大阪の町と共生するキャンパス「中之島センター」を、本学草創の地、中之島地区に建設することを計画しております。これは、関経連が関西経済再生シナリオで提唱する「大学の都心集積の推進」事業に呼応するものであり、「平成の懐徳堂・適塾」を目指しております。

滞電会員の諸兄には、既に、この事業に対する募金趣意書が届けられておりますが、是非とも趣旨にご賛同くださいまして、格別のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。なお、寄付者の全員の名簿を作成するとともに、3 万円以上ご寄付された方の銘板を設置してご意志を顕彰させて頂くことになっております。

なお、「中之島センター」設立のための募金活動は順調に展開しております。特に、本学教官に対する募金につきましては、寄付の目安が、総長 100 万円、副学長 30 万円、部局長 20 万円、教授 10 万円、助教授 5 万円、助手 2 万円と設定され、岸本総長から全教官に対して、機会あるごとに協力要請がありましたので、教官を中心とした個人レベルの寄付総額は 2 億円強 (3 月末現在) に達しております。学外の方からの寄付が進んでいないとの報告もありますので、滞電会員の諸兄には是非ともご賛同を賜りたくお願い致します次第です。

		グランキューブ大阪 [大阪国際会議場]			その他
		メインホール 5 F	特別会議場 12 F	イベントホール 3 F	
5 月 5 日 (祝)	9:00				
	10:00				
	11:00	記念式典			
	12:00	記念講演			
	13:00				記念祝賀会
	14:00			夢ワールド 次世代展 [公開]	
	15:00	記念 シンポジウム [公開]			
	16:00				
	17:00		国際交流イベント		
	18:00				国際交流懇親会
19:00					
5 月 6 日 (日)	9:00				
	10:00		国際交流 シンポジウム		
	11:00				
	12:00			夢ワールド 次世代展 [公開]	
	13:00				国際交流懇親会
	14:00				
	15:00				
	16:00	記念コンサート [公開]			
	17:00				
18:00					

インターネット配信  
<http://www.osaka-u.ac.jp/info/70kinen.html>

## 超伝導フォトンクス研究センター発足

辻 毅一郎 (電気・昭41、M43)  
超伝導フォトンクス研究センター長  
(電気工学専攻・教授)

超伝導フォトンクス研究センターは、2000年3月をもって10年の時限を迎えた超伝導エレクトロニクス研究センターに替わるものとして、同年4月より設置が認められた新しい研究センターです。新センターは、旧センターで平成7年に新たに発見された現象、すなわち高温超伝導の薄膜に超短光パルスを照射することにより、周波数がテラヘルツに達する超高周波の電磁波が放射される、という現象を中核として、超伝導エレクトロニクスと光エレクトロニクスを融合した全く新しい分野「超伝導フォトンクス」を世界に先駆けて開拓することを、その設置の主たる目的としています。

幸いこの現象は、現在、未開拓の電磁波であるテラヘルツ波に関わる興味深い現象として話題になり、平成8年以降これに関連した複数の研究プロジェクトが旧研究センターを中心として推進されてきました。研究設備もここ数年で大変充実し、学内外からの利用者も多くなっています。平成9年及び10年には田中昭二超電導工学研究所長を委員長とする外部評価を実施、高い評価を得て、時限終了後、規模を拡大して新分野の積極的な開拓にあたるべきとの助言も受けました。旧センターの教授1、助教授1の定員から一挙に、2部門1客員部門の教授2、助教授2、助手2、外国人客員教授1へと拡大する構想は、このような状況に基づいて策定されました。

この構想の実現に向けては、電気系の諸先生方からも絶大なご支援をいただきました。幸い、文部省の担当課の方々のご理解も得られ、この構想がそのままの形で認められ、関係者一同心から感謝しています。

旧超伝導工学実験センター、旧超伝導エレクトロニクス研究センターの設置・運営には電気系と応用物理学専攻が深く関わっており、初代のセンター長は電気工学専攻の辻が拝命しています。旧センターの萩行教授は引き続き新センターの専任教授となり、同じく斗内助教授は新たに専任教授に昇進いたしました。また、村上助教授、長島助手、川北助手を採用しました。2001年度には、外国人客員教授の招聘も決定しています。今後、大阪大学が世界に誇れる研究センターの一つとして、大いに成果を挙げるべく研究に邁進しておりますので、漆電会の皆様の一層のご支援・ご鞭撻をお願いする次第です。

## サイバーメディアセンターの発足

西尾章治郎  
サイバーメディアセンター長  
(情報システム工学専攻・教授)

大阪大学サイバーメディアセンターは、平成12年4月に学内外の情報基盤を支える組織として新たに設置された全国共同利用施設です。サイバーメディアセンター(以下、本センター)は、旧大型計算機センター、旧情報処理教育センター、図書館(一部)を再構成し、大学院理学研究科、大学院工学研究科、大学院基礎工学研究科、言語文化部・大学院言語文化研究科などをはじめとする教育・研究組織との連携により機能し、先端的研究成果を求めるとともに最先端の情報処理技術基盤の教育と普及を行う中核的拠点を目指します。

学内的には、デジタルコンテンツをはじめ、多様なメディアを基盤とした、新しい形態での人間の知的活動を促進する、すなわち、新たな思索、発見、創造を促し、知的活動の大規模化、グローバル化を促すサイバースペースあるいはサイバーソサイエティをキャンパス内に構築することを指します。ここに、「サイバーメディア」センターの名前の由来があります。学外的には、全国共同利用施設として、その技術を同地域および全国の大学に普及させ、保有する計算およびネットワークリソースを提供していくという大きな役割をもっています。

具体的には、本センターは、先端科学研究支援、高度教育支援・情報技術普及、情報発信、研究開発の四つの大きな機能をもち、そのうち研究開発は、設置された7研究部門、すなわち、情報メディア教育研究部門、マルチメディア言語教育研究部門、大規模計算科学研究部門、コンピュータ実験科学研究部門、サイバーコミュニティ研究部門、先端ネットワーク環境研究部門、応用情報システム研究部門、で強力に推し進めています。

本センター発足後1年が経過しましたが、今までの短い期間に、さまざまな課題に取り組んできました。平成13年1月より新スーパーコンピュータ NEC SX-5/128M8の運用を開始しました。平成13年秋には、電子図書館システム、およびセキュリティを考慮した高速キャンパス情報ネットワークシステムが導入されます。さらには、平成14年夏、豊中キャンパスに新棟が竣工します。

本センターが学内の情報基盤をより強固なものにし、その技術を同地域および全国に普及、整備することによって、大阪大学の全ての教職員および学生、国内外の利用者、共同研究者、さらにはマルチメディア・コ

コンテンツを閲覧する一般市民に至るまで、本センターが提供するサービス機能を何らかの形で有効に享受できるようなコミュニティの創出に寄与するものと確信しています。滞電会の皆様には、本センターに対しまして今後益々のご支援・ご鞭撻を何卒宜しくお願いいたします。

### 松浦虔士教授最終講義

電気工学専攻教授・松浦虔士先生は、平成13年3月31日をもって定年退官されました。ご退官を迎えられるにあたり、最終講義が平成13年1月30日(火)午後3時より電気系メモリアルホールにて行われました。当日は、学内のみならず、卒業生・共同研究者等、学外からも多数聴講に来られました。電気工学専攻長の伊藤利道教授より松浦先生のご略歴が紹介された後、「体験的電力技術論」と題する90分の講義が始まりました。まず、犬石嘉雄先生のご指導のもと電気工学科・電気工学専攻修士課程において半導体の放射線損傷の研究を行われた後に、昭和37年に住友電工(株)に入社され、超高電圧電力ケーブルの黎明期における研究開発から実用化に至るまでの全てに携われたことについて述べられました。この過程において、演題にもある「体験」について電力ケーブルというものを五感で体験したことをもとに、机上の調査研究だけでは得られない実学の重要性について説かれました。昭和52年に大阪大学に助教授として就任されてからは、これらの「体験」をもとにして、電力の発生・伝送・変換・制御の広範囲な課題に取り組み、多くの業績を残されたことを述懐されました。また、電力・エネルギー分野での研究「体験」を通じて、わが国の「電力技術」は世界に対して大きく貢献しているが、新技術の創出といった面での貢献度が低いことを指摘され、その原因を日本人の国民性にあることまで言及されました。最後に、21世紀の「電力技術」はエネルギー・環境・



経済・倫理の調和的解決といった困難な課題に直面しており、技術の社会性を重視し多軸的に研究開発を展開すべきであると結ばれました。

講義終了後、先生のご指導に感謝の意を込めた花束贈呈が、研究室の富岡佳秘書から行われ、大きな拍手に包まれながら退場されました。なお最終講義の後、電気系会議室において松浦先生を囲んだ茶話会が開かれ、約2時間にわたり和やかな雰囲気での懇談がおこなわれました。(舟木 剛(電気・平3、M5)記)

### 濱口智尋教授最終講義

電子工学専攻教授・濱口智尋先生は、平成13年3月31日をもって定年退官されました。ご退官を迎えられるにあたり、最終講義が平成13年2月16日(金)午後2時より電気系メモリアルホールにて行われました。電子工学専攻長の吉野勝美教授より濱口先生のご略歴が紹介された後、「半導体の研究から得たもの」と題する講義が始まりました。講義の前半では、大阪大学工学部電気工学科在籍中から始められたマイクロ波を用いた半導体の研究の話から、順に時間を追って、これまで先生が行われてきた研究内容の紹介をされました。世界に先駆けたガン効果に基づく微分導電率の測定法を提案され自ら実測されたというような初期の研究内容から、近年のヘテロ構造素子や微細構造素子に関する研究内容までを話されました。半導体デバイス工学、半導体物理学の非常に広い範囲に渡る数多くの研究成果を紹介されたのですが、それぞれの研究において、共同で仕事をされた学生の、名前のみならず、どのような学生であったかまでを詳細にご記憶されており、先生の教育に懸ける情熱を改めて思い、深い感銘を受けました。講義の後半では、先生と親交の深い海外の研究者を40枚あまりの写真を交えて紹介されました。写真で紹介された海外の研究者だけでも20名を越え、先生の親交の広さを再確認すると同時に、



常に、世界基準でみた研究を心掛けて来られた研究姿勢を伺い知ることができました。最後に、大阪大学で楽しく無事に教育・研究生活を過ごされたことについて感謝の言葉を述べられ、講義が終了しました。

講義終了後、先生の長年のご指導への感謝の意を込めた花束が研究室の野村友子秘書より贈られ、大きな拍手に包まれ、先生はご退席されました。最終講義の終了後、別室にて、濱口先生を囲んだパーティが開かれ、和やかな雰囲気での懇談が行われました。なお、濱口智尋先生退官記念祝賀会および記念講演会が本年7月6日にリーガロイヤルホテルと大阪国際会議場で行われる予定です。

(森 伸也(電子・昭61、M63、D平3)記)

### 西原 浩教授最終講義

電子工学専攻教授 西原 浩先生は、平成13年3月31日をもって定年退官されました。ご退官を迎えられるにあたり、最終講義が平成13年2月1日(木)午後3時より電気系メモリアルホールにて行われました。他専攻や学外も含めた多数の聴講者がありました。電子工学専攻長の吉野勝美教授から西原先生の御略歴が紹介された後、「光デバイス研究40年」と題する90分の講義が始まりました。

まず先生が大学に入学された頃の科学技術情勢と本学電気系を概観して、マイクロ波電子管をテーマとして研究を始められた経緯に触れられ、学部・大学院での進行波管の結合らせんの結合長測定、動作パラメータ測定の研究について話されました。また大きな影響を受けた書籍として Sommerfeld 著「偏微分方程式論」と 賀川豊彦著「宇宙の目的」を紹介されました。

続いて助手・講師時代にレーザーの分野に研究対象を移された経緯を述べられ、カナダ国立研究所で従事された炭酸ガスレーザーの研究と多国籍研究者との共同研究の体験について話されました。この頃の光デバイス



の重要な進展の紹介の後、ご帰国後の新テーマでの研究について概説されました。炭酸ガスレーザーの小型化に取り組み、導波型炭酸ガスレーザーを開発されました。またホログラムメモリの研究を展開され、その技術を応用した光結合器「ホロカップラ」や「マイクロフレネルレンズ」の提案と先駆的研究をされました。導波路ホログラムの研究や、電子ビームによるグレーティング作製について紹介され、初めて作製したグレーティングが虹色に光ったときの喜びを回顧されました。光ファイバを用いたレーザードップラ血流計測の共同研究は医学上の成果も得られ、速度計測用光集積回路の研究に発展しました。研究室で行われた光素子作製の電子ビーム描画装置やレーザービーム描画装置の開発、集積光ディスクピックアップ、熱光学効果光制御デバイス、光接続デバイス、波長変換デバイス、導波路レーザー、半導体光集積デバイスなど多くの光デバイスの研究、および学外での発展例も紹介されました。

40年の研究生活を振り返って再び結合らせんに話題に戻され、分布結合のように重要な問題を理解しておくことと種々の応用が展開できて面白いとの感慨を述べられました。また光エレクトロニクスの成長期を体験され、光集積回路の発展に寄与されたことのご自負を述べられ、大学での研究の楽しさと技術の種をつくることの重要性を強調されました。

さらに超高压電子顕微鏡センター長を務められたご経験により、同顕微鏡の歴史と現状を紹介され、研究者の協力関係の重要性を強調されました。また附属図書館長として取り組まれた本館新築や電子図書館化について述べられました。顧問をされた Bible クラブも紹介されました。最後に先生のご趣味であるスケッチを披露され、大阪大学で受けられた支援に感謝の言葉を述べられました。以上のように豊富な内容の講義を終えられると全員から大きな拍手が送られました。

講義終了後、先生のご指導ご貢献に感謝の意を込めた花束贈呈が研究室の芳崎由佳秘書から行われ、再度の大きな拍手に包まれました。先生が心血を注いでこられた光デバイスの発展と先生の幅広い貢献が実感できた感銘深い最終講義でした。なお、最終講義終了後、別室で西原先生を囲んでパーティが開かれ、和やかな雰囲気で懇談が行われました。

(栖原敏明(電子・昭48)記)

### 松浦虔士教授退官記念祝賀会

電気工学専攻システム・電力工学講座電力工学領域教授を、平成13年3月末日に定年退官された、松浦虔士教授の退官記念祝賀会が、同年3月9日ホテル阪

急インターナショナル（大阪市北区）において、電気工学専攻主催で開催された。祝賀会は2部構成で、まず午後5時から、「電力・エネルギー技術の最前線を語る」と題してパネル討論会が「花風の間」で実施された。同討論会は、実行委員長、電気工学専攻辻毅一郎教授の司会のもと、5名のパネラーが、電力システム、地中送電、電力設備診断、エネルギー・環境、新世紀の電力工学者のための教育論等々の話題を提供した。パネラー5名の話題提供の後、松浦先生がご講評を述べられ、午後7時にパネル討論会終了の運びとなったが、参加者総数は200名になんなんとしており、文字通り「熱き思いを語る」パネル討論会となった。

午後7時には、会場を「瑞鳥の間」に移し、松浦先生ご夫妻ご臨席のもと祝賀パーティーを開宴した。このパーティーは、電気工学専攻長伊藤利通教授の司会で開宴され、電気工学専攻を代表して、実行委員長辻教授からご挨拶があり、松浦先生のご経歴やご業績が紹介された。その後参加者を代表して3名の来賓と、門下生代表として筆者から祝辞が披露され、続いて成松啓二（元澤電会会長）会員のご発声で乾杯、歓談となった。パーティーはビュッフェ形式で、250名余の参加者が、そこかしこに歓談の輪を広げ、松浦先生がそれらの輪を順に廻られて、出席の方々と思い出を語りあわれた。和気藹々の歓談は、瞬く内に2時間を費



やし、パーティーのお開きが近づいた頃、松浦先生自身「最も尊敬する大先輩」とおっしゃる小島啓示様から、若き日の松浦先生についての数々のエピソードが紹介された。そして花束や松浦先生論文集の贈呈、先生からの御礼のご挨拶、伊藤利通教授からの閉宴の挨拶があり、満場の拍手のなか先生ご夫妻が退場になった。お開き口では先生ご夫妻が、出席者一人一人に丁寧に挨拶され、やがてパーティーはお開き、午後10時頃つつがなく祝賀会を終了した。

（河崎善一郎（通信・昭48、M50、D53）記）

## 西原 浩先生退官記念祝賀会

電子工学専攻集積電子システム工学講座集積光電子工学領域教授を平成13年3月末に退官された西原浩先生の退官記念祝賀会が、電子工学専攻主催により3月16日（金）に千里阪急ホテルクリスタルホールで開催されました。祝賀会は西原先生ご夫妻のご臨席のもと、電気系教官を中心とする先生に近い関係の70余名の出席者により、終始なごやかな雰囲気の中で午後6時から8時まで行われました。

電子工学専攻森田清三教授の司会で開会され、まず電子工学専攻を代表して専攻長で実行委員長の吉野勝美教授からご挨拶があり、西原先生のご経歴やご業績が紹介されました。つぎに電気系四専攻を代表して、通信工学専攻長の前田肇教授からのご挨拶がありました。引き続き吉野教授から記念品の贈呈が行われました。その後、電子工学専攻の尾浦憲治郎教授のご発声で乾杯が行われ、歓談と食事に移りました。

祝賀会は着席ビュッフェ形式で、各テーブルで歓談の輪が広がりました。西原先生ご夫妻が全てのテーブルを廻られ歓談されるとともに記念撮影をされました。

この後、図書館長を務められた西原先生の補佐を務められてきた附属図書館事務部長尾崎一雄氏からのお祝いのスピーチがあり、さらに研究室を長年支えてきた栖原敏明助教授から門下生を代表して謝辞が述べら



れました。

つぎに西原先生ご夫妻への花束贈呈が行われ、西原先生がご出席の方々にお礼のご挨拶をされました。最後に、森田清三教授から閉会の挨拶があり、満場拍手の中、先生ご夫妻がご退場になりました。会場出口では先生ご夫妻が出席者一人一人に丁寧に挨拶され、祝賀会はお開きになりました。

（栖原敏明（電子・昭48、M50、D53）記）

## 研究室紹介

電気工学専攻  
電気材料・  
物性工学講座  
電気材料工学領域



教授 平尾 孝

技術立国としての日本の戦略分野は1) IT 2) 生命科学 3) 環境  
4) ナノテクノロジーとなっており、当講座ではこれらに関連する電気材料に  
関するテーマを設定推進している。

### 1) IT関連分野

パソコンや各種モバイル機器あるいは情報家電の構成で出力となるディスプレ  
イは人間と機器のマンマシンインターフェイスとして大変重要でLCD、PDP、  
有機EL、FED等のフラットパネルディスプレイをめぐる開発競争が熾烈であ  
る。このうち当研究室では高輝度、高精細、低消費電力等各種性能の優れたFED  
のための高効率電子源としてカーボンナノチューブ等の炭素系材料の合成と応用  
に注力している。最近ではプラズマCVD法等を用いて低温合成(500°C-600°C)  
に成功し大きな注目を集めている。炭素系材料の電子放出材料としての開発は経  
済産業省の国家プロジェクトとして推進している。

更に日本の産業力強化の一環として今後大きく期待されているものとしてLCD  
用の低温ポリシリコン薄膜トランジスタ(TFT)があげられる。これについて  
筆者は東芝、シャープ等有力メーカーも量産に活用している大面積不純物ドー  
ピング技術(イオンドーピング)の基本技術を保有しており更に上記TFTの高性  
能化のために必要なゲート絶縁膜の低温形成について研究開発を進めており基本  
特許を申請中である。

### 2) 環境関連分野

当分野に関してはクリーンエネルギーとしての低コスト高効率太陽電池(多結  
晶薄膜シリコン太陽電池)の開発に注力している。そのキーテクノロジーは多結  
晶シリコン薄膜の形成技術であり当研究室では主としてNi等の触媒技術を用い  
た固相成長技術を開発している。触媒技術としては、NiだけでなくCo系、合  
金系等の適用で低温短時間固相成長技術の開発を行っている。そのためにラマン  
分光装置の基板ホルダー部に昇温機構を付置し詳細な結晶化メカニズムを追求し  
ている。

更に地球環境汚染の除去の一翼を担うため光触媒材料技術の開発を行っている。

酸化チタンは、バンドギャップ(3.2eV)以上の励起光を照射することにより  
電子・正孔対を生成し、電子、正孔の酸化還元反応により有害物質を分解する光  
触媒となる特徴をもつ。酸化チタン光触媒には超親水性も発見され、ガラスの曇  
り止めへの応用も行われている。

一方、励起光の有効利用という観点から、太陽光、蛍光灯などの可視光照射下  
で光触媒活性を有する酸化チタンが望まれている。本来紫外光照射下でのみ光触  
媒活性を示す酸化チタンを、可視光照射下で活性化させることで、室内蛍光灯下  
での除菌、防菌、脱臭等の室内環境浄化材料への応用が可能となる。われわれ研  
究グループは、RF-スパッタ法を用い作製した酸素欠損型酸化チタン(TiO<sub>x</sub>)  
が、可視光照射下での光触媒反応性を有することを見出した。既にNO分解、  
アセトアルデヒド等の分解が可能であり又超親水性を有していることを実証した。

### 3) 国家プロジェクト

酸化亜鉛材料に関して近年高品質ZnO薄膜の合成が実現されさらに従来困難  
とされ、その為に半導体デバイスとして研究が進められなかったp型ZnOの形  
成について理論的にも実験的にも実現されたことから筆者は大阪大学や京都大学  
(株)ローム等とともに経済産業省地域コンソーシアムとして「ZnO薄膜半導体デ  
バイス」というテーマを提案し採択され平成12年~14年の3年間で紫外LED  
及びプラスチック上のTFTというテーマ開発をPLとして推進している。

#### 4) ナノテクノロジー関連分野

1) との関連でカーボンナノチューブの配向制御や密度、径、長さ制御技術について研究開発を行っており、微細トランジスタ、水素吸蔵、リチウム二次電池等への応用を目指している。又その為に磁場や電場印加可能な装置開発を行っている。

## 研究室紹介

情報システム工学専攻  
社会情報システム工学講座  
知能情報システム工学領域



教授 赤澤 堅造

本領域は、1989年(平成元年)に創設された情報システム工学科の計画情報システム工学講座に始まり、1996年の大学院重点化により標記のように改められた。1999年3月まで薦田憲久教授が担当され、2000年4月より赤澤堅造が担当している。本領域は、情報技術の工学的な手法の開発と先進的な応用分野を開拓するものであるが、現在は特に、生体の知的情報処理機能、制御機能を工学的な立場から解明し応用することで、研究者の育成と研究成果の社会への還元を目指している。

ヒトは視覚・聴覚・触覚などの感覚器を通して外界から各種の情報を入力し、それぞれに適当な処理を施して判断をおこない、必要な行動を発現させている。これまでの機器は主として人間の能力を補うべく発達したものであるが、近年はさらに文字・音声認識、ロボット、福祉支援機器など人間代行・支援を目的とした高度な機能を持つ情報システム・機械の開発とその社会的な応用の要求が高まっている。これに応えるためには、生体内部にまで立ちいって、生体における一連の情報処理・制御の仕組みを解明することが必要で、新しい情報処理パラダイムや福祉支援機器を開発するために重要である。本領域では、生体の知的情報処理に関する種々のレベルでの計測結果に基づき、各種感覚の情報処理機構のモデリングと応用、運動制御メカニズムの解析と応用、福祉支援機器の開発等に関する研究を展開している。なお、日本学術振興会未来開拓学術推進研究のプロジェクト研究「機械的親和性を重視した生活支援福祉ロボティクス」の副拠点として、この5カ年研究を推進してきた。

研究室の人員構成は、教授赤澤堅造、助教授朴炳植、助手金寛、奥野竜平、大学院生8名、学部学生9名、研究生(国費留学生)1名である。主な研究テーマは以下の通りである。

- (1) 感覚・運動情報の解析と応用(感覚情報伝達、多点同時計測脳神経活動、筋電図、独立成分分析、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズム、)
- (2) 運動制御機構の解析と応用(筋電制御義手、機能的電気刺激)
- (3) 仮想楽器演奏ヒューマンインターフェース  
対象が生体であるため電気系からは縁遠いテーマのように見えるが、エレクトロニクス・情報・制御の技術を基礎とした身近なテーマばかりである。



## 退官された先生方の近況

### 櫻井 良文 (名誉教授)

IEEE より “Third Millennium Medal” を受領して

1月13日付で IEEE Magnetics Society の Friedlaender 教授 (Purdu 大) から Millennium Medal の受賞者に選ばれたとの通知があり、つづいて 24 日付で B.A. Eisenstein 会長からも手紙を頂いたので、4月9日からトロント (Toronto) で始まる国際会議 INTERMAG 2000 へ家内同伴にて出席した。4月とはいえトロントはホテルの窓から白い景色の見られる寒さで、自慢の CN タワーからの眺めを楽しむにはまだ早い季節であった。8年前に Achievement Award を頂いた時は光磁気の研究に対する貢献となっていたが、今回は顕著な貢献にというだけで高令の方が多く、十数名の受領者 (日本人は私 1 人) も、欠席者が数名であった。

昔からの懐かしい顔ぶれがそろった晩餐会では楽しい一ときを過ぎたが、地元トロント大の Biringer 教授の未亡人の姿が印象に残った。学会のセッション会場ものぞいて見たが、アジアからの発表が増えている一方、それらがレベル的に評価されているかどうか疑問も残った。久しぶりの海外旅行の機内は手許に液晶ディスプレイが備わったので若者達がゲームを楽しむ風景が珍しく印象に残った。

### 嵩 忠雄 (名誉教授・広島市立大学教授)

米国ボストンで開催された、1998 ISIT (IEEE International Symposium on Information Theory; IEEE 米国電気電子学会) において、小生の 1999 Claude E. Shannon 賞受賞が公表されて以来、多くの方々から懇切なご祝意やお励ましを頂き深く感謝しております。特に、1998年12月に大阪大学コンベンションセンターで実施された受賞決定記念講演会、祝賀会には多大のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。情報理論の創始者 Shannon 教授の偉業にちなんで the IEEE Information Theory Society により創設された賞を頂くのは、身に余る光栄ですが、恒例により今回の ISIT (2000 ISIT) で “Shannon Lecture” をすますまでは “執行猶予” の身でありました。

2000 ISIT はイタリー、ソレント市の Sorrento Conference Center で、本年6月25日から30日まで開催され、約500件の研究発表 (我が国の関係者の発表約40件) があり盛会でした。小生は6月27日1999年の協会会長 E. Biglieri 教授 (トリノ工科大) の司会の下、“Recursive Soft-decision Decoding Algorithms for Binary Linear Block Codes” の題目で、楫勇一助教授 (奈良先端大)、藤原融教授 (大阪大) との最近の共同研究の概要を紹介しました。強いて標語的に表現すれば、符号理論の古典的な問題に、ソフトウェア工学での一手法を持ち込むことにより予想外によい結果が得られた実例報告です。

6月29日には、2000年受賞者 T. Kailath 教授 (スタンフォード大) による “Adaptive Filtering, Displacement Structure and Fast Modem” の Shannon Lecture が行われ聴衆に感銘を与えました。6月29日、ナポリ国立鉄道博物館で授賞式が行われました。その席上、J. Wolf 教授 (カリフォルニア大、サンデゴ分校) が 2001年の受賞者に決まったことも発表されました。

御指導、御支援、御助力を頂いた方々に深謝しつつ報告を終わります。

追伸: ISIT は、北米とそれ以外交互に、約1年半ごとに開催されてきましたが、年々新しい分野に拡大、参加者も増加の一途をたどってきましたので、来年からは1年ごとに開かれることになり、2001年ワシントン DC、2002年スイス、ローザンヌ、2003年は、今井秀樹教授 (東大) 河野隆二教授 (横浜国大) のご尽力で横浜が予定されています。(1988年神戸に続いて我が国では2回目)



Biglieri 教授 (左) より盾の進呈  
(電子情報通信学会誌 Vol.83, No.11, pp.859 より)

## 池田 博昌 (東京情報大学)

平成 12 年 3 月に大阪大学大学院工学研究科通信工学専攻教授を停年退官し、4 月から東京情報大学経営情報学部情報学科教授に就任し、1 年が経ちました。東京情報大学は、学校法人東京農業大学が昭和 63 年に開設した情報系を主体とする文系の大学で、1 学部、4 学科の構成で、学生数は学年当たり約 600 名おり、千葉市の北東端に位置しております。担当している授業は、大学院生に「情報通信ネットワーク特論」、3 年生に「情報通信論」、「情報通信網」、1 年生に「コンピュータと社会」をそれぞれ教えており、卒業研究のゼミ配属が 3 年生からあるので、7 名の 3 年生を担当しています。今年からは、1 年生も 10 人程度をゼミ形式で指導することになっており、1 年生、3 年生、4 年生と 3 つのゼミを担当することになります。私立大学の常で、すべてを一人でこなさなくてはならず、時間の経つのが非常に早い感じです。

学外の活動としては、大阪大学在任時から継続して I E E E 関西セクション副支部長を務めており、昨秋にはマレーシアで開催された Region 10 総会に支部を代表して参加し、支部活動活性化のヒントをつかんできました。副支部長の任期は、昨年末で終了したのですが、Past Vice Chair として引き続いて 2 年間支部活動をお手伝いすることになりました。また、経済産業省系の社団法人「電子情報技術産業協会」において、「情報ネットワーク技術専門委員会」の委員長を務めており、昨年末には「高速アクセスネットワークおよびネットワークセキュリティに関する技術調査団」の団長としてドイツ、フランスの企業、研究機関を訪問してきました。さらに、千葉県における地域経済振興を検討する「千葉県 I T 活用経済振興有識者懇談会」の副委員長も務めております。

最後になりますが、濤電会東京支部山本正隆支部長から新支部長を引き継ぐようにお話があり、4 月 20 日の総会からお引き受けすることになりました。非力ではありますが支部活性化に努力する所存でございますので、どうか宜しくお願い申し上げます。

## 卒業生の近況

### 谷口 武史 (電気・昭和 54、M 56)

西村先生が御退官された昭和 56 年に時期を同じくし、最後の不肖の教え子としてマスターを終了し、はや 20 年が過ぎようとしております。住友金属工業和歌山製鉄所に配属後、都会に出ることもないため、あいつは元気にやっているのか?と思われている方々も多いと思いますが、学生時代の頭の軽さと、元気だけではなくさず頑張っています。

私は、入社以来薄板鋼板の圧延関係の板厚制御を初めとした、電気制御の設計、メンテナンス関係に従事して参りました。製鉄所の設備は、寿命が非常に長く、電気品の歴史を物語れるほど多種多様に渡ります。学生時代見たこともない、M-G セットや直流サイリスタ装置が現在も稼働し、最近では GTO を用いた交流電動機の可変速装置を採用した圧延機駆動を導入しております。一方、材質、温度等条件が変われば、鉄は生き物のように挙動が変化し、良い成品を造るためには、良い足廻り(ドライブ系)と魂のこもった頭脳(制御系とドライブ系をどのように動かすかという運転方案)の両面が必須条件となります。そのために種々の最先端技術を開発し、実用化させていくのです。私も、10 数年前に高精度板厚、高精度平坦度を達成するため、その当時の最新技術を駆使した圧延機の建設に取り組み、仲間と共に苦労したことが思い出されます。

数年前より、現場部隊の第一線に立つ業務に携わり、現在は物造りにおいて必要不可欠である電気・ガス・水を製鉄所内の全工場へ安定供給するため、ボイラー・タービン・発電機を有する自家発電所、ガスホルダ等の運転・メンテナンス業務を約 90 名の室員と共に業務に励んでいる毎日です。電気だけでなく、機械、流体力学等、今まで馴染みのない広い分野に至り、学生時代もう少し真面目に勉強しておけばと後悔している次第です。又、今までとは異なり、室員の多くの方が、如何に自分の仕事に情熱を持って、元気で前向きに働くことができるか、そして全員が無事に帰宅できるかという点にいつも心をおき、日夜頑張っています。私の学生時代を知っている研究室の後輩は、私によくこき使われた記憶がよみがえり、谷口はその能力だけで卒業できたのだから向いていると言うかもしれませんが、今は一層悩みが深く、技術関係だけでなく面でも苦労している毎日です。

昨今の激動の時代を生き抜くため社会で働く人々は、共に大変な努力をしているところですが、持ち前の明るさ

だけではなくさないようにし、頑張っていきたいと思いますので、皆様のご指導、バックアップよろしくお願ひ致します。  
(住友金属工業(株)和歌山製鉄所 設備部 動力室)

### 大内 徳人 (電気・昭57、M59、D63)

学生時代に行っていた超伝導電磁石とその冷却技術の研究が縁でつくばにある高エネルギー加速器研究機構(前高エネルギー物理学研究所)に入所し、今年で13年になります。当時、研究所ではTRISTAN加速器の試運転も開始され、超伝導機器の導入を待つ状態でありました。私が担当した超伝導4極電磁石は電子と陽電子のビームを衝突点直前で絞り込む為のもので、ビーム蓄積型加速器に導入された超伝導電磁石としては日本で最初のものでした。この超伝導4極電磁石により、これまでの衝突確率を2倍に高めることができました。この電磁石は空芯で長さが1.4mの小型電磁石でしたが、その要求される性能は高く、70T/mの磁場勾配、コイル内での最大経験磁場5.2T、電磁石ボア内での誤差磁場成分が主成分に対して $10^{-4}$ と非常に高精度かつ高磁場の電磁石でした。これらの電磁石を8台、液体ヘリウムの冷却システムを各ビーム衝突点に1設備(合計4設備)建設を行い、TRISTANの物理実験が終了するまでの6年間これらの運転を行いました。TRISTANのシャットダウン後、次期加速器(KEKB-factory)でもビーム衝突点直前の超伝導電磁石システムの建設を担当し、現在その運転を担当しています。この超伝導4極電磁石は、前システムと同じく高磁場、高精度のマグネットであることは言う間でも無く、マグネット内部にビームに対する位置を電磁的に調整する超伝導補正コイルを持つ非常に複雑な電磁石です。又、この電磁石前方(より衝突点近傍)には、ビーム光学上必要な超伝導ソレノイドを配置しておりシステムの的にも更に複雑な構成となっています。これらの運転と並列に、現在ヨーロッパ共同体で構成されている研究所(CERN)で建設が進められている加速器(LHC)で使用される超伝導4極電磁石の開発及び建設にも参加しています。これらの電磁石は超流動液体ヘリウムで冷却され、発生磁場勾配も200T/mを超える化け物のような電磁石です。この電磁石の開発には多くの方が参加されていますが、私は磁場測定を担当しています。マグネットの最終性能を判断する検査官のような立場にあります。この電磁石は20台建設される予定で、今後4年間はこれらの電磁石と格闘することになると思います。

これらの研究活動とは別に、学生時代より楽しんでおりましたバレーボールを現在も続けております。若い選手に冷かされながらも2m43cmのネット越しにアタックを打ち込んで(?)います。忙しさの中にもスポーツは気持ちを和らげてくれる唯一のものでこれからも続けていこうと思っています。(高エネルギー加速器研究機構)

### 湖東 幸弘 (電気・昭58、M60)

近畿日本鉄道に入社以来、早いもので16年が経過しました。入社直後から鉄道部門の車両関係業務に従事してきましたが、入社して暫くは世の中もバブル景気にあり、鉄道輸送人員も右肩上がりのよい時代が続きました。当時、当社でも新形式車両を次々と投入し、特急車だけでも21000系アーバンライナー、26000系さくらライナー、23000系伊勢志摩ライナー等のヒット車両を生み出しました。車両の開発には私自身も多少なりとも関わったこともあり、今でもこれらの車両を見かけると新造当時の苦労を思い出します。しかし、バブル崩壊後は不況による消費の低迷や社会構造の変化の影響等で、ここ数年は輸送人員も減少傾向で厳しい経営環境にあり、鉄道もいろんな意味で転換時期に来ていると言えます。安全・正確・迅速・快適という鉄道本来の魅力に磨きをかけ、環境にやさしい輸送機関である鉄道の長所を生かすべく、さらにお客様に便利にご利用いただけるよう設備等の改善を図っていかねばならないと考えています。今現在の担当業務ですが、約2年前から天王寺営業局で南大阪線や桜で有名な吉野線等の鉄道電気設備の保守業務を担当しています。運転保安度を確保するうえで重要な設備が多く、またこれらの設備の代替・改良工事も継続して実施中で、忙しい日々を過ごしています。世の中全般の技術の進歩には目を見張るものがあり、パソコンの世界でも2年前の最高級機種のパフォーマンスがいまや最低価格機種で実現されており、製品のサイクルはますます短くなっているようです。これに対して鉄道設備は物によっては15年から50年以上も使用することもあり、新しいものを次々と採用することが必ずしも得策とは言えませんが、将来に亘って長期に使用することを十分配慮した上で、新技術の採用も積極的に進めていきたいと考えている今日この頃です。

(近畿日本鉄道(株))

## 西 正博 (通信・平7、M9、D11)

現在私が所属しております広島市立大学の紹介も兼ねて、近況を報告させていただきます。

広島市立大学は、設立されてまだ7年という新しい大学であり、芸術学部、国際学部および私が所属している情報科学部の3学部から構成されており、理系の学部は情報系に特化され、非常に設備も充実しております。学生一人に対するコンピュータの数の比率は全国で10位に入るほどです。また、学内LANはギガビットルータと光ファイバを用いた構成となっており、ネットワーク環境はととても快適です。さらに、阪大の吹田キャンパスと同様、周囲には学生を誘惑する飲食店や娯楽施設はあまりなく、(それほど山の中に位置しているということですが。)教育・研究機関としては最高の立地条件だと思います。

私は1999年4月に広島市立大学情報科学部情報数理学科の助手に就任しまして、2001年度で3年目を迎えようとしております。初年度は、学生実験指導書の作成や担当している数学演習の問題および解答作成等、慣れない仕事ばかりでしたが、学生時代自分が受けてきた実験や講義を参考にして資料を作成した結果、受講した学生からも良い評価を受けることができました。また研究活動では、新たに、地震に伴う地殻変動と自然放射電磁波との関係の解明という研究にも着手し、より多くの観測データを収集するため、日本全国各地に観測系を構築する一方で、各観測点をネットワーク接続し遠隔制御システムを構築しています。自然現象を相手に研究することは、なかなか根気があることですが、未知の現象を解明していく楽しさがあるように感じます。在学中に学んだ「研究の楽しさ」を学生と一緒に味わい、少しでもその心を学生に伝えられるように努力したいと考えています。(広島市立大学)

## 三坂 重雄 (電子・昭38)

1963年に現シャープ株式会社に入社し、38年の永きに渡って勤務したことになりました。私の世代は20世紀後半のエレクトロニクス、特にマイクロエレクトロニクスの大きな変化の中で技術の変遷を肌で感じる経験を積むことが出来ました。例えばメモリーについて言えば、電磁リレー、磁歪遅延線メモリー、拡散型トランジスターと点接触ダイオードで構成されたフリップフロップ、ダイオードトランジスタロジックの第一世代のIC、MOS型トランジスターで構成されたMOSメモリー、256kビットから始まり1Mビットのメモリーから直近の64Mビットの大容量メモリーまで経験しました。この間、併せてコンピューターも大変大きな変化をしてきました。製品分野でも事務機、パソコン、複写機、プリンターの開発も経験し、直近の6年間はデバイス事業に携わり現在に至っています。現在は半導体、液晶、オプトエレクトロニクス、太陽電池等の電子部品の事業を担当しております。現在ハードウェアの世界は電子デバイスにその付加価値が移行し、又ネットワーク等のインフラを通して、サービスやコンテンツに新しい価値が移って行く時代になりました。インターネットの普及は私の経験では革命的な出来事でありました。21世紀に入って我国の現状は米欧韓台の世界の技術競争、熾烈なサバイバル競争の真っ只中にあります。その中で需要創造とそれを可能にする新しい事業の芽を生み出すこと、又他の追随を許さない知的所有権で守られた新しい技術開発が何よりも望まれます。今の時代はあらゆる面で過剰供給の時代です。資金の調達の大と過剰な設備投資、人を通じた技術の流動性の高まりにより新しい製品や技術は直ぐにコモディティ化し、その為に激しい価格競争に巻き込まれます。そういう中で大切な事は、先ず人のやらない技術、製品開発、それに挑戦する技術者集団の育成、加えてデファクト・スタンダードを狙った啓蒙・業界活動が重要です。又特に大切にしてゆきたい事は人との繋がり、言い換えると今からはknow-howよりknow-whoの時代と言えます。私も大阪大学を通じて貴重な人の繋がりが出来ました。何よりもこれがかけがえの無い力だと思います。これからもこの考え方で人の輪を広げて同じ立場の人の役に立っても行きたいと思っています。

(シャープ(株)デバイス事業統轄)

## 山本 晃司 (電子・昭39、M41)

修士時代にコンピュータに初めて接した。図体は大きく、演算速度は今のPCよりはるかに遅く、かつ、使い勝手となると比較にならない。産業界に出てからもずっとコンピュータシステムの事業に従事し、その進歩と共に生きてきた。一部のセクションで使われていたコンピュータは、次に事務部門に広がり、今や、インターネットの出現により、一般の人々を大きく巻き込んで、かつてない広がりをもって、社会や生活に浸透しつつある。

インターネット時代に向けた新しいアプリケーション(利用技術)の開発と事業化が、最近の私の中心的な仕事の一つである。インターネットの基本的な特徴は、「安価で、簡便で、グローバルな広がりを持った世界共通のネッ

トワーク基盤であること」。これを利用して、企業や政府・自治体や個人等をネットワーク化して新しい価値を創出し、社会の発展に役立つというのが目標である。

インターネットの基盤自身は世界共通であっても、その利用技術のあり方や効果は文化（国や地域）によって異なるものである。我々の日常生活（生活習慣や商習慣等の文化のかたまり）をより便利で快適でしかも経済的なものにするものでなければならない。ある国の利用技術をそのまま輸入してもうまく行かないはずである。産業界としては、実際に即した効果のある利用分野と利用技術を創出して行かなければならない。また、利用を効果ならしめるための環境整備（規制緩和や新たな法整備や必要な施設等）を働きかけ、またこれに取り組んで行かなければならない。

インターネットは、道具であるので、当然「功」もあれば「罪」もある。産業革命がそうであったように、それに匹敵すると言われているインターネットもまだまだ見えない功罪があると当然想定しておかなければならない。

日本のインターネットの普及は遅れており、アジアにおいてもシンガポールや韓国にも遅れていると騒がれている。インターネット時代は、まだ、その第一ページ目を開けようとしているに過ぎない。これからである。急ぐ事も大事だが実質的で着実な利用技術の積み上げがやはり大事と認識されてきたこの頃です。（(株)日立製作所）

### 八川 剛志（情シス・平5、M7）

95年に情シスを卒業、住友電工に入社し、早くも6年が経ちました。入社以来、ずっと病院総合情報システムの開発を行っています。3年ほど前から住友電工システムズ（株）に出向し、話題の電子カルテシステムの開発に携わっています。この記事が冊子になる頃には、九州のとある病院にて本格的な電子カルテシステムが稼働している（はず？）です。実はこのシステムは、米国の会社にて開発されたものです。日本市場に適用する為に、ビジネスモデルの日本対応／システムインフラの日本語対応／他システムとのインターフェース開発／システムアクセス関数（API）を用いたユーザインターフェース（GUI）の開発など、種々の開発要素が存在するのですが、私は後者3つを手がけ、現在は最後の1つがメインとなっています。

この「システムアクセス関数」は、今流行のJava言語を対象としてライブラリが提供されています。このように書けば、「既にライブラリが完成しており、バグも枯れている」かのように見えますが、実はそうではなく、このアクセス関数自体も開発中なのです。客先の要望よりGUIのデザインが決定されれば、私の出番です。必要なデータをどこから取得するのか、サーバ上のどのロジックをどういったタイミングで動作させるのか等の解析を行い、必要なシステムアクセス関数を決定、必要に応じて米国の会社にて開発の交渉を行います。

この3年で、計10回、延べ20週間ほど米国に出張しました。私のことを知る人がこれを読めば、きっとビックリすると思います。大学を卒業する時、初めての海外旅行に友人と4人で出かけたのですが、カルチャーショック（と言うより、英語恐怖症）で1日寝込んでしまったのです。（その時には、「風邪ひいた」と言い張っていましたが……。）そんな私が、今ではこうやって立派に（？）外人と渡り合っているわけです。入社以来、たくさんの経験をさせて頂いています。

私事ですが、昨年4月に子供が産まれました。それ以来、子供を風呂に入れる事を目標に残業を切り上げる毎日です（笑）。仕事・家庭共にとても充実した日々を送っています。

（住友電気工業（株）住友電工システムズ 医療情報システム事業部）

### 近村 晶央（情報システム・平8、M9、D11）

99年の4月に就職し、早いもので2年が過ぎ去り、一体何ができたんだろうと振り返ると、まだ形として残るものは何もできていない。仕事の担当は、学生時代の研究テーマに関連した、半導体ファイナルテスト工程の「装置予約システムの開発」である。このシステムは、ロットの納期を遵守させるために、工場の装置を何時から何時までは、ロットのある工程の処理のために予約するというシステムである。開発に着手してすぐは、一年ぐらいで1つの工場にシステムを入れることを目標に簡単に考えていたが、そんなに単純でなく、いまだ開発評価を進めている段階に留まっている。研究では、装置の故障など突然の事象も統計確率的にあらわされ、複雑にする要因も想定したものしかない。しかし、この開発に携わり、実際にシステム導入するというのは、研究とはまったくの別問題であると改めて感じた。今対象としている工場は、品種数は多く、その生産量も流動的であり、1品種に対して複数種類のフローがあり、また装置の故障はある期間に偏り多発することがあるなど考慮すべき要因が複雑かつ多

過ぎて、FA化されておらず、人が介在する。人は、すばらしく柔軟に対応できるというメリットはあるものの、工場全てを考えるにはすでに人の頭で考えられる範囲を遥かに越えており、このシステムを実現できれば画期的であり、非常に大きな期待を背負っている。

最近、頻りに工場に出張し、試作段階ではあるが、実際に装置・ロットに予約を出しというところまではこぎつけた。最初は、工場部分適用から始め、徐々に適用を広げ、1つのテスト工場全体への適用に近い目標ではある。次に、地区のテスト工場全て、そして前の工程へも手を広げ、と考えてはいるものの、経験・知識ともにまだまだ浅く、まだまだ勉強の必要がありそうです。

(三菱電機(株) 半導体生産・技術統括部 テスト技術部 テスト生産技術課)

## 会員の方々のご活躍

### 叙 勲・褒 章

#### 山中千代衛 名誉教授が勲二等瑞宝章を受章

山中千代衛 名誉教授(電気・昭23)は平成12年春の叙勲におきまして「勲二等瑞宝章」をご受章されました。高出力レーザー、レーザー核融合をはじめとする長年にわたる先生の幾多のご業績と教育・研究におけるご貢献によるものであります。この慶賀に対し、心よりお祝い申し上げます。なお、勲章ご受章のお祝いの会は喜寿のお祝いも兼ねまして、平成12年10月20日(金)大阪・中之島のリーガ・ロイヤルホテルにて先生ゆかりの方々が相集い、盛大かつ和やかに挙行されました。

#### 浅居喜代治 氏(大阪府立大学名誉教授)

##### が勲三等旭日中綬賞を受章

浅居喜代治 氏(通信・昭26)は平成11年秋の叙勲におきまして「勲三等旭日中綬賞」をご受章されました。この慶賀に対し、心よりお祝い申し上げます。

#### 鵜飼 壽 氏が勲三等瑞宝章を受章

鵜飼 壽 氏(電気・昭26)は平成12年秋の叙勲におきまして「勲三等瑞宝章」をご受章されました。この慶賀に対し、心よりお祝い申し上げます。

#### 長岡良富 氏が藍綬褒章を受章

長岡良富 氏(通信・昭39、松下電器産業(株)取締役AVC社副社長)は平成12年5月、「藍綬褒章」をご受章されました。「超精密非球面ガラス成形レンズおよび応用製品の開発育成」のご業績が高く評価されたもので、心よりお祝い申し上げます。

### 受賞(学会賞・学会フェロー称号等)

#### 櫻井良文 名誉教授(電気・昭18)

IEEE Third Millennium Medal

平成12年4月

【受賞理由】IEEE Magnetics Societyにおける顕著な貢献

#### 長谷川晃 元教授(通信、昭32、M34:ATR)

米国物理学会 James Clerk Maxwell 賞

平成12年6月

【受賞理由】非線形ドリフト波の乱れの理論に関する革新的な発見と独創性に富んだ貢献(For innovative discoveries and seminal contributions to the theories of nonlinear drift wave turbulence)

#### 嵩 忠雄 名誉教授(通信・昭33、M35、D37:広島市立大学教授)

IEEE IT Society, Claude E. Shannon 賞

平成12年6月29日

【受賞理由】符号理論への貢献

電子情報通信学会 フェロー

平成12年10月2日

【受賞理由】符号理論・形式言語理論及び工学教育への貢献

#### 池田博昌 元教授(通信、昭34:東京情報大学教授)

電子情報通信学会 フェロー

平成12年10月2日

【受賞理由】デジタル交換システムの先駆的研究開発及び実用化

笠原正雄 氏 (通信、M昭37、D40:大阪学院大学教授)

電子情報通信学会 フェロー

平成12年10月2日

【受賞理由】情報通信システムにおける基礎的研究と情報倫理構築に関する貢献

西原 浩 名誉教授 (通信、昭35、M37、D40:福井工業大学教授)

電子情報通信学会 フェロー

平成12年10月2日

【受賞理由】光集積デバイス工学の先導的研究に対する貢献

白川 功 教授 (電子、昭38、M40、D43:情報システム工学専攻)

電子情報通信学会 フェロー

平成12年10月2日

【受賞理由】大規模集積回路の設計自動化手法の先駆的研究

森永規彦 教授 (通信・M昭40、D43:通信工学専攻)

IEEE (米国電気電子学会) フェロー

平成13年1月1日

【受賞理由】ファイバシステムにおける知的無線通信システムと広帯域無線の開発における貢献とリーダーシップに対して (For contributions to and leadership in the development of intelligent radio communication systems and broadband radio on fiber systems.)

塩澤俊之 教授 (通信・昭39、M41、D44:通信工学専攻)

IEEE (米国電気電子学会) フェロー

平成13年1月1日

【受賞理由】工学的応用を目的とした相対論的電磁理論ならびに自由電子レーザーの理論的研究に対する貢献に対して (For contributions to engineering-oriented relativistic electromagnetic theory and theoretical study of free-electron lasers.)

高部英明 教授 (電気、昭50、M52、D55:レーザー核融合研究センター)

米国物理学会 フェロー

平成12年10月25日

【受賞理由】広く使われるようになったアブレーション・フロントのレーラー・テーラー分散曲線を導いた理論的・数値的研究およびレーザー天体物理という新分野開拓の先導者としての先見性に対して (For his theoretical and numerical investigations leading to the universally used ablation-front Rayleigh-Taylor dispersion curve, and his visionary role in shepherding the emerging field of laser-astrophysics.)

佐々木孝友 教授 (電気・昭42、M44:電気工学専攻)

Medal for the Acknowledgement of Scientific Value and Research Activities (フランス国)

平成12年5月29日

【受賞理由】紫外線発生用の新結晶C L B Oの開発に対して (科学技術部門のメダル)

小西博雄 氏 (電気・M昭47:日立製作所) (他5名)

電気学会電気学術振興賞論文賞

平成12年5月19日

【受賞論文】他励式直流多端子送電システムの制御保護方式の開発とシミュレータ試験

寺井春夫 氏 (電気・昭48:松下電器産業)

電気科学技術奨励賞 (オーム技術賞)

平成11年11月9日

【受賞研究】家電分野ファジイ技術

北山研一 教授 (通信・昭49、M51:電子情報エネルギー工学専攻)

科学技術庁 注目発明認定賞

平成12年4月17日

【発明の名称】光ミリ波生成伝送方式および装置

小島哲夫 氏 (電気・平元、M3、D12:三菱電機)

森 勇介 助教授 (電気・平元、M3:電気工学専攻)

佐々木孝友 教授 (電気・昭42、M44:電気工学専攻)

平成12年5月31日

レーザー学会進歩賞

【受章論文】全固体高出力紫外レーザー

岡田修一 氏 (電気・平3、M5:大阪ガス) (他20名)

計測自動制御学会技術賞

平成12年7月27日

【受章研究】フルイディックガスメーター

福島高司 氏 (電子・平3、M5 : 神戸製鋼所)

システム制御情報学会学会賞奨励賞

平成12年5月17日

【受賞論文】品質解析用2次元パターンからの言語特徴抽出方法

一階良知 助手 (情シス・平5、M7 : 情報システム工学専攻)

薦田憲久 教授 (電気・昭47、M49 : 情報システム工学専攻)

片岡健司 氏 (通信・昭62、M平元、情シスD平11 : 三菱電機)

電気学会電気学術振興賞進歩賞

平成12年5月19日

【受賞理由】知識獲得機能を備えた知識型計画方式の開発と乗務員運用計画への適用

西村征起 氏 (電気・平9、M11 : 松下電器産業) (他3名)

応用物理学会論文奨励賞

【受賞論文】Highly Efficient Electron Emission Diode of Single-Crystalline Chemical-Vapor-Deposition Diamond

原 隆浩 助手 (情シス・平7、M9 : 情報システム工学専攻)

春本 要 講師 (現教官 : 情報システム工学専攻)

塚本昌彦 助教授 (現教官 : 情報システム工学専攻)

西尾章治郎 教授 (現教官 : 情報システム工学専攻)

第15回電気通信普及財団賞 (テレコムシステム技術賞)

平成12年3月

【受賞論文】通信網広帯域化の環境変化に適応して、データベースの移動によるトランザクション処理の高速化を図る新しい方式を提案したもので、発想の新しさと面白さが評価された。(Database Migration : A New Architecture for Transaction Processing in Broadband Networks (IEEE Transactions on Knowledge and Data Engineering, Sep./Oct. 1998))

塚本昌彦 助教授 (現教官 : 情報システム工学専攻)

情報処理学会平成11年度坂井記念特別賞

平成12年5月9日

【受賞研究】モバイルコンピューティングのためのアプリケーションプラットフォームの構築技術に関する研究開発

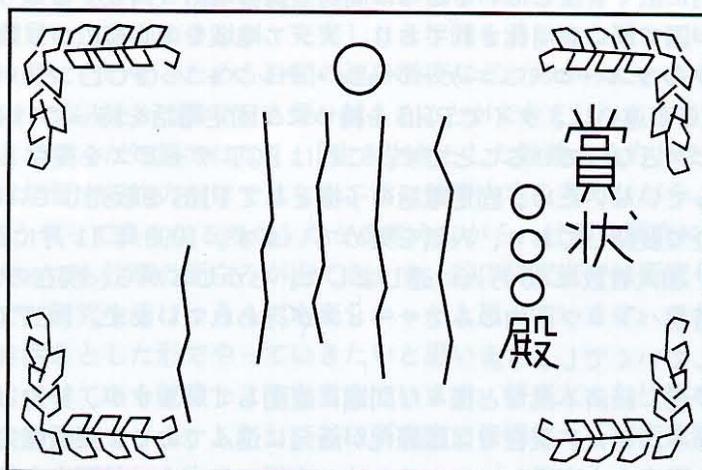
### 就 任 (学会の要職等)

辻毅一郎 教授 (電気・昭41、M43 : 電気工学専攻)

システム制御情報学会会長

(平成12年5月17日より1年間)

\*会員各位のご活躍につきまして記載漏れがございましたら、何とぞご容赦ください。なお、受賞等本欄に掲載すべき慶事がございましたら、随時、滞電会事務局までご連絡いただければ幸甚です。



## 留学生の声

### 胡 章貴（電気工学専攻 D3）

私が中国科学技術大学から大阪大学に来て4年半が経ちました。平成9年から、工学部電気工学科佐々木教授のご尽力により、1年半の間客員研究員として研究室に迎えていただきました。平成10年度に博士後期過程に進学し、今年3月に卒業予定です。佐々木教授のおかげで4年半の間自分の研究が着々と進んでいく様子が見えました。さらに、研究のみならず、生活上での暖かいご関心や経済上でのご援助を頂きまして、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。研究室において、先生方や学生の皆様にいろいろお世話になり、またお互いに助け合い、一緒に仲良く、楽しく研究できて本当に良かったと思います。

佐々木研究室はその研究内容において世界的に有名な研究室です。現在は、将来のエネルギー問題や高度情報化社会での技術革新の中核をなす新機能材料の開発を行っています。特に、紫外光発生を目的とした波長変換光学結晶、熱電エネルギー変換材料、新光・電子デバイスを目的とした窒化物結晶やその他の新機能半導体材料など、バルク及び薄膜結晶を中心とした新材料や結晶育成技術の開発について基礎と実用化の両面から研究を行うことで、研究者の育成と研究成果の社会への還元を目指しております。私は充実した研究と勉強を行うことができ、今振り返ると本当にこの4年半楽しく過ごしてまいりました。

留学生のみんなにとって日本への留学の目的は、先端科学、技術の習得することだけではなく、いろいろな日本の社会や文化を理解し、日本の風俗習慣を身をもって体験し、自分の視野を広げていくことでもあります。とりわけ、学校で先生方や学生の皆様と親しく話ができるように努力し、そして学内だけではなく地域社会での日本の友人たちとの交流を密接にし、留學生活がより豊かなものにすることが必要です。それは留学の大きな意義であります。

現在、中国改革開放、経済発展に伴って、たくさんの中国留學生が日本に来ました。中国留學生たちは中日間の科学技術、経済、文化交流の民間大使であります。今だけではなく、それは将来中国に帰ってからも、中国の科学技術、経済、文化など各領域で重要な役割を果たすでしょう。留学の経験があり日本社会を理解する学生たちが、未来の中日交流促進の重要な力であります。そして、中日の友好関係において活躍されることを期待しています。

### Pat Suwonpanich（通信工学専攻 D3）

私は平成6年4月に大学院に留學するために来日しました。日本は思っていた通りに街や道路がきれいで、高度な技術を利用した物がたくさんありました。日本に来る前に、日本人が不親切というイメージがありましたが、時が経つにつれて多くの日本人がそうではないと思うようになりました。日本に留學することを決断した理由の一つは日本には最先端技術を導入した物が豊富にあることです。様々な分野で日本の技術はどの国にも劣らないと思います。アジアの国々を始め、世界中の人々に低価格で高品質な商品を日本企業が提供してきました。

その例の一つとして、国内に広く普及している日本の簡易型携帯電話（PHS）を取り上げたいと思います。PHSシステムは海外でもタイや中国で既に商用化されており、アジア地域を中心に広がり始めております。タイには、PHSが基盤となっているパーソナル・コミュニケーション・テレフォン（PCT）というサービスがあります。しかし、日本のPHSサービスとの違いは、タイでPHSを持つには固定電話を持っていることが必要であり、PCTは固定電話の付加価値サービスとなっていることです。これはPCTサービスを提供しているTelecomAsia社が携帯電話のライセンスを持っていないため、固定電話の子機としてPHSを販売しているからです。PCTサービスは携帯電話の半額程度の料金で展開しており、人気を集めています。1999年11月に正式にサービスを開始し、2000年3月31日現在、PCT加入者数は25万人に達しました。しかしながら、現在のところまだまだアンテナの設置が追い付かず、タイの首都バンコク市内のみでサービスが行われています。PCTには新サービスが追加されつつあり、これからも発展していくでしょう。

現在、日本は高齢化、少子化、経済不況など様々な問題に直面していますが、努力と洞察力で日本がそれらの問題を解決できると信じています。また、現在では国際化が活発に進んでおり、英語能力がより重要になってきています。日本語と英語は文法も発音も大変異なっているため、大抵の日本人は外国人と英語で話すことが難しいと感じますが、これから一層の国際化のために英語が話せることが大事ではないかと思います。

## 杜 海清 (情報システム工学専攻・M2)

私は、日本に来てもう三年半になりました。今年の3月に博士前期課程を修了します。ここで、私の留学生活とその感想を少し述べたいと思います。

最初日本に来たばかりの時に、ここは外国だと思いませんでした。人々の顔も私と同じですし、漢字もどこでも見られます。生活するのに、全然不便だと思いませんでした。また、日本の自然環境がいいということは私にとっては、すごく印象的です。

中国で1年間日本語を勉強したにも関わらず、研究に対してそのレベルではまだ不十分だと感じました。幸い、大阪大学留学生センターの日本語コースが設置され、私は参加しました。その時に、日本語の文法、単語以外に、講義の聞き取り方、論文の書き方、発表の仕方、OHPの作り方なども、いろいろ教えていただきました。今でも、当時勉強していたことは非常に役にたっていると思います。したがって、留学生のみなさんに対して、この留学生センターの日本語コースをお勧めします。

博士前期課程に入学して、研究生生活が始まりました。私の場合は、1年目は主に講義を受け、2年目から、本格的に研究が始まりました。戸出先生のVODチームに入って、先生や同じグループの先輩、後輩からいろいろ教えていただきました。また、同級生の谷岡さん、益田さん、横山さんからいろいろ協力してもらいました。ここで、心から感謝の意を表したいと思います。研究について、今から考えると、もっと早く着手したほうがよかったと思います。まず、留学生として、日本語の言葉の壁があります。また、研究の方向性の決定や背景の調査など非常に時間がかかり、素晴らしい論文を書くために、多くの仕事が不可欠です。私の場合1年間だけでは不十分であり、もっと早く始めたらよかったと思います。みなさんは早く研究に着手すべきです。

研究のほかに生活の面でも、いろいろ村上先生にお世話になりました。学生寮に住む期間や私費留学生としての生活費などについて、先生に時々聞かれました。これらのことから、先生の優しさを感じています。このことを両親に報告すると、私の留学生活について、両親も安心していました。

4月から日本の会社に勤めることになり、村上研究室の先生方と学生一同に感謝したいです。私の留学生活の間、皆さんの御協力ありがとうございました。

## Tan Boon Keat (電子情報エネルギー工学専攻・D2)



私が来日してから8年になります。この8年間で、まず1年間大阪外国語大学で日本語を修得し、大阪大学に入り、博士課程(前期と後期)を修了しました。過去の3年間、私は株式会社シンセシス\*1の契約社員になり、集積回路の設計をしました。満足とは言えませんが、充実した8年を過ごしたと思っています。勿論すべて嬉しい日ばかりではなく、締め切りに間に合わせるため5日間の連日徹夜などつらかったときもあります。しかし、谷口先生をはじめ皆さんのおかげさまでなんとかつらい日も乗り越えることができました。本当に感謝の気持ちで一杯です。

私にとって一番大切なことは学んだ知識ではなく、「生き生きとした勉強する力」を身につけたことです。「生き生きとした勉強する力」とは学習する能力だけではなく、常に仕事内容を考えながら、より良い方法を探しつづける習慣も含んでいます。「どうやって良くなるのか」などを考えながら、仕事や研究における諸問題をぶつけてやっていくので、どんな仕事をやっても仕事の面白みが出てきます。谷口研究室では研究したいことを自分で決め、自分で研究計画を立てますので、研究生生活はつらくても楽しかったと思っています。これからもどんな仕事をやっても今までの研究姿勢で、生き生きとした形でやっていきたいと思っています。

来年から、一年間研究員になってから就職しようと考えています。将来どんな仕事をするのか、本当に大学で学んだ知識は企業で通用するのか分かりません。しかし、谷口研究室で修得した「秘密武器」があるから、なんとかなるでしょう。

\* 1 阪大の教授及び住友電工で作ったIC設計のベンチャー会社です

# 教室情報

## ▼平成13年度 学生見学旅行

### 電気

- 3月5日(月) トヨタ自動車(株)(豊田市)  
 3月6日(火) (株)東芝 府中事業所(府中市)  
 日本電気(株) 府中事業場(府中市)  
 3月7日(水) 富士通(株) 川崎研究所(川崎市)  
 (財)電力中央研究所 狛江研究所  
 (狛江市)

参加学生人数: 31名

引率教官: 熊谷貞俊 教授、  
 伊瀬敏史 助教授

### 電子

- 3月6日(火) (株)東芝 府中事業所(府中市)  
 3月7日(水) 沖電気工業(株) 八王子事業所(八王子市)  
 東京エレクトロン(株) 藤井事業所  
 穂坂事業所(山梨県韮崎市)  
 3月8日(木) 富士通カンタムデバイス(株) 本社  
 事業部(山梨県中巨摩郡)

参加学生人数: 38名

引率教官名: 尾浦憲治郎 教授、  
 片山光浩 助教授、本多信一 助手

### 情報システム

- 2月28日(水) 川崎製鉄(株) 千葉製鉄所(千葉市)  
 3月1日(木) (株)日立製作所 中央研究所(国分寺市)  
 東京エレクトロン(株) 穂坂事業所  
 藤井事業所(韮崎市)  
 3月2日(金) セイコーエプソン(株) 松本事業所  
 (松本市)  
 (株)エプソンソフト 開発センター  
 (松本市)

参加学生人数: 37名

引率教官: 赤澤堅造 教授、  
 朴 炳植 助教授

なお、通信工学科目については、平成11年度より  
 春季見学旅行は取り止めとなりました。また、電気系  
 四学科目とも、夏季の関西地域企業見学は従来どおり  
 行っております。

## ▼平成13年度5専攻長

- |               |          |
|---------------|----------|
| 電気工学専攻        | 熊谷貞俊 教授  |
| 通信工学専攻        | 小牧省三 教授  |
| 電子工学専攻        | 尾浦憲治郎 教授 |
| 情報システム工学専攻    | 赤澤堅造 教授  |
| 電子情報エネルギー工学専攻 | 谷野哲三 教授  |

## ▼電気系人事(平成12年4月2日～平成13年4月1日)

- |       |       |        |          |                       |
|-------|-------|--------|----------|-----------------------|
| 尾崎 雅則 | 助教授   | 専攻換    | 12.5.1   | 電子(電情より)              |
| 正城 敏博 | 講師    | 昇任     | 12.5.1   | 電情                    |
| 斗内 政吉 | 教授    | 昇任     | 12.5.1   |                       |
|       |       |        |          | 超伝導フォトンクス研究センター       |
| 坪内 夏朗 | 客員教授  | 採用     | 12.5.1   | 自由電子レーザー研究施設          |
| 浅川 誠  | 客員助教授 | 昇任     | 12.5.1   | 自由電子レーザー研究施設          |
| 大道 博行 | 教授    | 辞職     | 12.6.30  | レーザー                  |
| 岡田 実  | 助教授   | 出向     | 12.7.1   | 奈良先端大(通信より)           |
| 門林 雄基 | 助教授   | 出向     | 12.7.1   |                       |
|       |       |        |          | 奈良先端大(サイバーメディアセンターより) |
| 児玉 了祐 | 助教授   | 昇任     | 12.8.1   | レーザー                  |
| 白神 宏之 | 助教授   | 昇任     | 12.8.1   | レーザー                  |
| 野川 裕記 | 講師    | 採用     | 12.8.1   | サイバーメディアセンター          |
| 村上 博成 | 助教授   | 昇任     | 12.8.16  | 超伝導フォトンクス研究センター       |
| 山田 昇一 | 助教授   | 昇任     | 12.8.16  | レーザー(京大より)            |
| 寺地 徳之 | 助手    | 採用     | 12.9.1   | 電気                    |
| 裏 升吾  | 助教授   | 出向     | 12.9.1   | 京都工芸繊維大(電子より)         |
| 本多 信一 | 助手    | 採用     | 12.9.1   | 電子                    |
| 松岡 俊匡 | 講師    | 採用     | 12.9.1   | 電情                    |
| 角 薫   | 助手    | 採用     | 12.10.1  | 産研                    |
| 森 勇介  | 助教授   | 昇任     | 12.10.16 | 電気                    |
| 藤井 彰彦 | 学内講師  | 昇任     | 12.12.1  | 電子                    |
| 河崎善一郎 | 教授    | 昇任、専攻換 | 12.12.16 | 通信(電気より)              |
| 藤本 靖  | 助手    | 採用     | 12.12.16 | レーザー                  |
| 重森 啓介 | 助手    | 採用     | 12.12.16 | レーザー                  |

松浦 虔士	教授	定年退官	13.3.31	電気
濱口 智尋	教授	定年退官	13.3.31	電子
西原 浩	教授	定年退官	13.3.31	電子
堀内 匡	助手	転出	13.3.31	
				松江工業高専(産研より)
舟木 剛	講師	昇任	13.4.1	電気
平田 晃正	助手	採用	13.4.1	電子
宮本 伸一	学内講師	昇任	13.4.1	電子
八木 哲也	教授	昇任	13.4.1	電子
				(九州工業大学より)
丸田 章博	学内講師	昇任	13.4.1	電情

\*電情=電子情報エネルギー工学専攻、  
 レーザー=レーザー核融合研究センター、  
 奈良先端大=奈良先端科学技術大学院大学、  
 産研=産業科学研究所  
 電気系5専攻・レーザー研の他にセンター、研究所  
 等の電気系5専攻協力講座の人事異動を含みます。

▼母校の教壇に立つ本会会員(平成12年度、敬称略)

- 電気工学専攻「離散事象システム論」  
川崎重工業(株)  
技術統括本部電子・制御技術開発センター  
ロボットプロジェクト部 システムグループ長  
長尾陽一(電子・昭47、M49)
- 電気工学科「特別講義」  
関西電力(株)  
常務取締役 岸田哲二(電気・昭38)
- 電気工学科「照明工学」  
松下電器産業(株)  
客員 坪 秀三(電気・昭35、M37)
- 通信工学専攻「通信工学特別講義」  
日本電気(株)  
NEC ネットワークス執行役員常務航空宇宙・  
防衛事業本部長 林 宏美(通信・昭38)
- 通信工学専攻「通信工学特別講義」  
(株)日立製作所デジタルメディア製品事業部  
モバイルシステム本部モバイルシステム開発センタ  
センタ長 岡本貞二(通信・昭48、M50、D53)
- 電子工学専攻「電子工学特別講義Ⅰ」  
鳥取大学工学部電気電子工学科  
光エレクトロニクス研究室  
教授 安東孝止(電子・M昭49、D52)
- 電子工学専攻「電子工学特別講義Ⅰ」  
三菱電機(株)産業システム研究所所長室  
主管技師長 鷲野翔一(電子・昭43、M45、D50)

- 電子工学専攻「電子工学特別講義Ⅱ」  
住友電気工業(株)  
常務取締役 吉田健一(通信・昭39、M41)
- 電子工学専攻「電子工学特別講義Ⅲ」  
高知工科大学  
教授 加納剛太(電気・昭36)
- 電子工学専攻「電子工学特別講義Ⅲ」  
(株)ATR 環境適応通信研究所 第一研究室  
主幹研究員 大平 孝(通信・昭53、M55、D58)
- 電子工学専攻「集積回路技術論」  
コマツ 顧問 島 亨(電気・昭36)
- 電子工学専攻「光波電子工学」  
三菱電機(株)映像情報開発センター 開発第一部  
第2グループ チームリーダー  
藤田輝雄(電子・昭53、M55、D58)
- 電子工学専攻「パターン認識論」  
三菱電機(株)先端技術総合研究所 チームリーダ  
辻野克彦(電子・昭59、M61、D平元)
- 電子工学科「特別講義」  
(社)トロン協会  
専務理事 中野隆生(電気・昭37、M39)
- 電子工学科「特別講義」  
(株)日立製作所 常務  
i.e.ネットサービスグループ長&CEO  
山本晃司(電子・昭39、M41)
- 電子工学科「集積回路工学」  
三菱電機(株)  
3Dグラフィックスプロジェクトマネージャー  
藤島一康(電気・昭48、M50)
- 情報システム工学専攻「情報システム工学特別講義Ⅰ」  
(株)富士通研究所 パーソナルシステム研究所  
PCメディア研究部長  
村上敬一(電子・昭49、M51)
- 情報システム工学専攻「計算機援用設計論」  
シャープ(株)IC事業本部 設計技術開発センター  
第1開発室 室長 神戸尚志(電子・昭51、M53)
- 情報システム工学専攻「計算機援用設計論」  
京都大学大学院情報学研究科通信情報システム専攻  
助教授 尾上孝雄(電子・平3、M5)
- 情報システム工学専攻「アルゴリズム論」  
京都大学大学院情報学研究科通信情報システム専攻  
助教授 尾上孝雄(電子・平3、M5)

## 滯電会役員

平成12年度滯電会本部および支部役員としてご尽力頂いた方々は下記のとおりです。○印は平成12年度、新たに就任された役員です（敬称略）。また、滯電会支部としては、東京、東海、北陸、中国、四国、九州支部が活動を行っています。役員氏名の他に、本部および各支部の連絡先を付記してありますのでご用の節はお気軽にご連絡下さい。

### [本部]

#### 会長

藤井 克彦（電気・昭28旧）大阪大学名誉教授

#### 副会長

○池田 健（電気・昭30）近畿日本鉄道（株）

河村 寿三（通信・昭29）福岡工業大学

山下 一彦（電気・昭31）四国計測工業（株）

山本 正隆（通信・昭34修）沖データ（株）

岩川 泰而（電気・昭34）中国情報システム  
サービス（株）

○白藤 純嗣（電気・昭34）福井工業大学

佐治 学（電気・昭35）愛知工業大学

○濱口 智尋（電気・昭36）阪大工電子

#### 幹事

○吉野 勝美（電気・昭39）阪大工電子

塩沢 俊之（通信・昭39）阪大工通信

○赤澤 堅造（電気・昭40）阪大工情報システム

辻 毅一郎（電気・昭41）阪大工電気

○仲野 恒雄（電気・昭46）住友電工（株）

○日高 憲一（電気・昭46）近畿日本鉄道（株）

辰野 恭市（電気・昭47）（株）東芝

西澤 貞次（通信・昭47）松下電器産業（株）

○中川 要（電子・昭47）三菱電機（株）

茄子原伸和（電子・昭47）オムロン（株）

松平 盛夫（電気・昭48）三洋電機（株）

田中 和浩（電気・昭49）（株）ダイヘン

西村 博明（電気・昭50）阪大レーザー

○南浮 泰造（通信・昭50）関西電力（株）

藤井 治久（電気・昭50）三菱電機（株）

北島 圭二（通信・昭52）西日本電信電話（株）

疇地 宏（電気・昭54博）阪大レーザー

伊瀬 敏史（電気・昭55）阪大工電気

鈴木 俊久（電気・昭55）富士通（株）

野田 正信（電気・昭56）関西電力（株）

上田 徹（通信・昭56）シャープ（株）

岳村 弘樹（通信・昭56）三洋電機（株）

杉本 充生（通信・昭56）住友電気工業（株）

○裏 升吾（電気・昭57）阪大工電子

（平成12年9月まで）

○尾崎 雅則（電気・昭58）阪大工電子

（平成12年9月から）

○赤木 宏之（通信・昭57）シャープ（株）

塚本 勝俊（通信・昭57）阪大工通信

○田中 康宣（電子・昭57）松下電器産業（株）

内海 利也（電気・昭58）JR西日本（株）

加納 隆（電子・昭59）日立西部ソフトウェア（株）

○戸出 英樹（通信・昭63）阪大工情報システム

○朝倉 敬喜（電気・平元）日本電気（株）

連絡先：〒565-0871

吹田市山田丘2-1

大阪大学大学院工学研究科電気系内

滯電会事務局 安井晴子

TEL 06-6879-7789（ダイヤルイン）

FAX 06-6879-7774

E-mail: reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp

### [東京支部]

#### 支部長

山本 正隆（通信・昭34修）沖データ（株）

総会幹事団体、NTT、日本電気（株）幹事団体代表・  
事務局連絡先

〒183-8501 東京都府中市日新町1丁目10番地

日本電気（株）

第一コンピュータソフトウェア事業部

○山元 正人（電気・昭53）

TEL 042-333-1251 FAX 042-333-1882

E-mail: yamagen@bk.jp.nec.com

[東海支部]

支部長

佐治 学 (電気・昭35) 愛知工業大学

代表幹事・連絡先

〒444-8606 岡崎市戸崎町字大道東7番地  
中部電力(株)岡崎電力センター変電技術課  
江本 邦夫 (電気・昭58)  
TEL 0564-55-5082 FAX 0564-57-1384  
E-mail : Emoto.Kunio@chuden.co.jp

[四国支部]

支部長

山下 一彦 (電気・昭31) 四国計測工業(株)

代表幹事・連絡先

〒796-0421 愛媛県西宇和郡伊方町九町コチワキ  
四国電力(株)伊方発電所設備管理課  
森田 寛 (電気・昭48)  
TEL 0894-39-0221 内2240 FAX 0894-39-0686  
E-mail: morita07854@yonden.co.jp

[北陸支部]

支部長

○白藤 純嗣 (電気・昭34) 福井工業大学

代表幹事・連絡先

〒910-8505 福井市学園3-6-1  
福井工業大学 電気工学科  
○木谷 博 (電子・昭37)  
TEL 0776-22-8111 FAX 0776-29-7891

[中国支部]

支部長

岩川 泰而 (電気・昭34) 中国情報システム

代表幹事・連絡先 サービス(株)

〒730-8701 広島市中区小町4-33  
中国電力(株)情報システム部  
配電地図情報システム開発担当  
○高森 功 (電気・平3)  
TEL 070-5828-7889 FAX 082-523-6381  
E-mail: 363386@pnet.energia.co.jp

[九州支部]

支部長

河村 寿三 (電気・昭29) 福岡工業大学

代表幹事・連絡先

〒820-8502 飯塚市大字川津680-4  
九州工業大学情報工学部電子情報工学科  
金藤 敬一 (電気・昭46)  
TEL 0948-29-7664 FAX 0948-29-7651  
E-mail : kaneto@cse.kyutech.ac.jp

事務局からのお願い

滞電会事務局へのお問い合わせ事項で目立ちますのは、「終身会員であるのに会費の請求をしてきた」ということです。これは、大阪大学工業会と滞電会とを混同しておられるためと思われますので、工業会と滞電会との関係について簡単にご説明いたします。

大阪大学工学部(その前身校を含む)には、学部全体の同窓会「大阪大学工業会」と学科または系の同窓会(例えば電気系学科であれば「滞電会」)があります。従って、滞電会の会員のうちほとんど全ての方は同時に大阪大学工業会の会員なのです。

ところが、工業会と滞電会とは財政的には全く独立しておりまして、それぞれが独自に会費制度を設けております。従いまして、工業会会費を既にお支払いになった方、あるいは工業会の終身会員の方からも、滞電会会費(年会費一律4,000円)を頂戴しております。また、滞電会では終身会員制は設けず、毎年会費をお納めいただいております。

会報や名簿の発行などを含め、滞電会の活動は全て会員各位からの会費に依存しております。滞電会の健全財政のため、今後とも会費納入につきましてよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

なお、勤務先、住所の変更などに関しましては工業会とは別途に、滞電会にもお知らせくださいますようお願い申し上げます。

## 同窓会だより

### 昭和 26 年卒電気同窓会

日 時：平成 12 年 9 月 11 日

場 所：南海サウスタワーホテル（大阪市難波）

出席者：西村正太郎先生

今村 謙一 岡本 明 絹川 泰正

近藤 道治 田中 輝男 対尾準三郎

永田敬太郎 本田 茂 宮本 利典

栗山 宏 毛利 三郎 川崎 昭 以上 13 名

毎年定例となりました昭和 26 年卒電気同窓会を西村先生をお迎えして南海サウスタワーホテルで開催した。来年は卒業後 50 年を迎え、盛大に行なう予定であるので今回は 1 日限りの簡素な催しとなった。

今年は兵庫県主催の「淡路花博」が 9 月で終了となる為例年より 1 ヶ月早めたため、颱風の心配をしていたのですが案の定新幹線が止まるような大雨に見舞われ皆様に多大なご迷惑をおかけしました。

名古屋以東の方々には出席できないと思いましたが、幸い皆様方のご配慮のせいで欠席者もなく同窓会を開く事ができました。

会は西村先生の洒落なご挨拶をいただいた後、乾杯をして会食、懇談に入った。

近況報告、欠席者からの近況のお便りなど話題が尽きなかったが、来年の盛大な同窓会を約して、散会となった。（川崎記）



### 阪大通信 32 同窓会 2000 年集会

98 年 2 月に台湾に同窓生の橋本氏が社長をしている台湾ファナックなどを訪ねて行いました。今回は 2 年ぶりで、2000 年を記念した集会を行いました。

#### 1. 今回の 2000 年集会のねらい

京都の花見を賑やかに行なう。また同級生の仕事の

中で、21 世紀にのこる仕事といえば、長谷川晃氏のソリトンがあります。それを我々と同行の奥様方にもわかるような講演をしてもらった。

#### 2. 日程

4 月 4 日（火）1 時 京都国際交流会館ロビー集合

集合後、円山公園、白川、花見小道、御所花見。生憎、京都は珍しい遅咲きで、ほとんどは咲いていなかったのですが、晃氏が前日調べて京都で 2 箇所だけ咲いている花見小道、御所近衛邸跡を訪ねました。

4 時半～6 時 平八茶屋会議室にて 長谷川晃氏講演会

晃氏の提唱指導により推進されたソリトン通信は、21 世紀の高速通信に活躍することになり、脚光をあびていますが、その原理や、理論と実験の展開をわかりやすく講演してくれました。

6 時 平八茶屋にて

平八茶屋は京都で最も古い料理屋で創業 1550 年。若狭からの鯖街道の京都の入口にあたり、魚の塩がちょうどいい加減に効いてきたところといい、甘鯛の塩味の刺身など若狭懐石で夕食。40 年ぶりに参加した井上氏らも含めてにぎやかに交歓。

宿泊者はホテルブライトンシティ山科。

4 月 5 日（水）

ゴルフ組 京都ゴルフ場上賀茂コース 12 名

大西 良一 木村 兵二 佐々木寛隆

佐々木正博 真常 良雄 田部 力

辻 芳郎 寺田 賢司 長谷川 晃 夫妻

藤井 克己 三善 恵介

生憎の雨で悪戦苦闘のスコアは公表しませんが、皆最後まで頑張り、気楽な楽しいゴルフでした。

観光組 7 名

岡崎 敏彦 竹村 敬 夫妻 野口幹夫 夫妻

久田 宏 夫妻

トロッコ列車で保津川峡谷を見、嵯峨野散策。定家の常寂光寺、去来の落柿舎、源氏物語の野々宮、臨済宗大本山天龍寺などを散策、嵐山嵐亭（らんでい）へ、これまた百年の歴史を思わせる川岸の離れで昼食。三々五々解散。

#### 3. 参加者名簿 27 名

井上 好則 入江 賢 大西 良一

岡崎 敏彦 木村 兵二 神島 博昭

小杉 健一 佐々木寛隆 佐々木正博

真常 良雄 竹村 敬 夫妻 田部 力

辻 芳郎 寺田 賢司 野口幹夫 夫妻  
 長谷川 晃 夫妻 久田 宏 夫妻  
 藤井 克己 堀 節夫 三善 恵介  
 山内 信治 山本 格一 吉村哲太郎



(野口記)

### 電気・昭35 同窓会

日時：平成12年4月23日(日)・24日(月)  
 場所：オオサカサンパレス(茨木市)  
 出席者：22名



(前列左から)手塚、福岡、松浦、山村、坪  
 (後列左から)佐治、須見、菊池、足立、栗田、六条、安達、眞井、木下、  
 首藤、若林、馬島、南條、多田、藤田  
 (写真に写らず夜から参加)宮崎(慶)、山下

卒後40年の記念すべき同窓会を母校に近い万博記念公園内のホテルで開催した。前回大阪市内で通信・昭35と合同の同窓会を行ってから10年振りである。在学当時山村研で卒研を行ったグループが毎年欠かさず山村研旅行を実施しており、今回は、その中からやろうという話しが持ち上がった経緯もあって、福岡、山村、松浦が幹事役を引き受けた。

当日は、出席者の日頃の善行によるためか、素晴らしい好天に恵まれた。先ず、近くの阪大吹田キャンパ

スを訪れ、阪大病院南側14階の展望所から広大な敷地の中で教育・研究を展開している母校の姿をマクロに眺めた後、歴代退官教授の肖像画や顔写真が掲げられている電気棟1階会議室に集まり、冷たいもので喉を潤しながら休憩、談笑した。ここで、記念に出版した卒後40年の各人の感想を綴った「滞電'60」—人生の節目に—という小冊子が手渡された。寄稿者は19名であったが、各人各様の卒後40年間の人生が凝縮されており、重い内容の一冊となった。

ハイライトは、夜のオオサカサンパレスでの宴会であった。還暦を過ぎて2、3年を経たかつてのクラスメート達が卒後の人生や在学当時の思い出などを語り合う中で、その変わり様と昔から変わらぬ様の二面が合体した各人各様の雰囲気漂わせ、青さは失せたがまだまだ若さというものを喪失していない互いの姿を目の当たりにして、驚きと同時にしんみりとした感動を覚えた。翌日同ホテルで朝食後解散したが、ゴルフ参加者9名は北六甲カントリー倶楽部へ移動し、好天の下でプレーを楽しんだ。(松浦記)



### 電気・昭13年『消息集』

本会「電気・昭和13年クラス」の『消息集』(平成12年7月発行)が滞電会事務局に届けられております。遠藤常忠氏が中心となって作成されたものです。ご覧になりたい方は、本会事務局へご連絡ください。

なお、同様の印刷物が他にもございましたら、事務局までご送付願えれば幸いです。また、各クラスで行ってられるクラス会の様子を事務局へお知らせいただければ「同窓会だより」のページに掲載させていただきますので、事務局宛て、原稿を電子メールなどでお送りください。事務局の連絡先は裏表紙に記されております。

# 滞電会だより

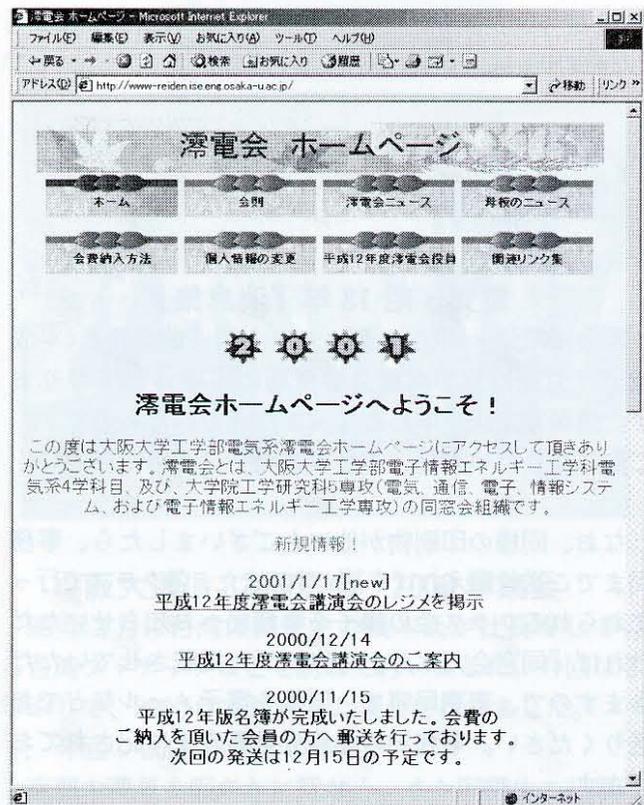
## 滞電会ホームページの案内

平成12年度第1回滞電会役員会にて、滞電会の各種活動をより積極的に会員の皆様にお伝えすると共に、会員の皆様の利便性を向上させる活動の一環として、滞電会ホームページ(HP)を立ち上げることになりました。そこで、HP作成作業に着手し、試験運用を通して機能拡充を行い、10月23日に実質的な運用が開始されました。現在、下記のURLでご覧いただけます。

<http://www-reiden.ise.eng.osaka-u.ac.jp>

電気系各専攻のご協力により、電気系各専攻HPからのリンクも設定され、大阪大学のHPから順に辿れば容易に滞電会HPを見つけることができます。滞電会ホームページは、以下の基本方針に基づき作成されました。

- (1) 会員が重要な情報を入手可能であること。  
会則、会費納入方法、各種イベント情報などの重要な情報を掲示しました。
- (2) 会員がホームページを操作しやすいこと。  
階層化されたメニュー形式で各情報ページへ自由に移動可能としました。
- (3) 会員の要求や情報変更を通知できること。



個人データの更新、滞電会へのコメント、会費自動払込の申請を行えるようにしました。会員からの各種通知情報は読み易い形式でそれぞれの学内担当者へメールされます。

- (4) セキュリティを考慮すること。

まだまだ不十分な点がありますが、最新のソフトウェアを導入するなど、鋭意強化していく予定です。管理運用体制につきましても、アルバイト謝金の形で担当学生1名を雇用することとなり、情報内容更新、サービス拡張、セキュリティ強化、不正アクセスログチェックなどの業務に当たっていただけることとなりました。

今後、滞電会ホームページが、会員の皆様にとって有効なページとなり積極的に閲覧していただけるよう、ますますの拡充に努めたいと思います。

(戸出英樹(通信・昭63、M平2)記)

## 平成12年度 総会・懇親会

平成12年6月2日(金)午後6時より大阪梅田・新阪急ホテルで193名の参加者を得て行われた。総会は塩沢幹事(通信・昭39)の進行役のもとで行われた。藤井会長(電気・28旧)の挨拶の後、平成11年度事業報告が谷口研二(電子・昭46)総務幹事から、また平成11年度決算報告が辻会会計幹事(電気・昭41)から行われ、それぞれ承認された。続いて藤井会長より本部席副会長に濱口智尋(電気・昭36)を推薦する旨の提案があり拍手を持ってこれを承認した。次に藤井会長から新幹事14名の指名が行われ、拍手をもって承認の後、新副会長、新幹事の自己紹介が行われた。引き続き辻新総務幹事から平成12年度事業計画が、また吉野勝美新会計幹事(電気・昭39)から平成12年度予算の説明が行われ、いずれも承認された。

総会に引き続き、恒例のスピーチが行われた。本年は、電子工学専攻の西原浩教授(通信・昭35)から「マルチメディア時代の大学図書館」と題してお話をいただいた。大阪大学附属図書館長としての立場から豊中キャンパスに新設された図書館を紹介された。

懇親会は谷口前総務幹事の司会進行のもとで行われた。藤井会長のご挨拶の後、櫻井良文名誉教授(電気・昭18)、続いて関西電力(株)専務取締役の山崎吉秀氏(電気・昭33)からご祝辞を頂戴した。各支部か

ら頂戴した祝電の披露の後、前会長の北田幹夫氏（電気・昭28新）の音頭で乾杯し、賑やかな歓談のひとつときを持った。最後に新副会長である濱口智尋教授の発声のもと万歳三唱を行い、盛会ののちに散会となった。

（谷口研二（電子・昭46、M48）記）

## 平成12年度 学外見学会

本年度の学外見学会が平成12年11月2日（木）に実施された。今回の見学先は青山高原の久居榊原風力発電施設（三重県久居市）であり、藤井会長をはじめ総勢45名の参加者を得て盛況に開催された。JR新大阪駅を出発し、バスにて西名阪自動車道路を經由して久居市へと向かった。風力発電施設の見学に先立って、女人高野の名を持つ室生寺に立ち寄った。室生寺では、二年半前の台風により被害を受け昨年修復を完了したばかりの国宝五重塔に参拝し、深い杉木立の中に立つ可憐な姿を堪能した。

前日より台風の影響による大雨との予報であったが、幸いにも室生寺の見学までは、雨に降られることもなく境内を散策することができた。しかしながら、我々の参拝が終わるのを待っていたかのように雨が降りだし、昼食時には土砂降りの雨となった。

昼食後車中では、施設の見学に先立ち、関西電力（株）野田正信幹事（電気・昭56）から「電力系統における分散型電源」と題した説明を頂き、これまでの大規模電源と今回見学する風力などの分散型電源との得失比較などの基礎知識を得て見学に望むことができた。

午後2時過ぎに現地に到着した時には幸いにも雨足は弱まり、霧で視界が悪いものの霧雨の中の見学となった。本風力発電施設は、久居市が風況等の立地条件の良さを生かして建設したものであり、750kWの発電能力を持つ風車4基が平成11年2月から稼働している。風車は青山高原の笠取山（標高842m）の頂上近くに設置され、若狭湾から琵琶湖を通過して伊勢湾に抜



久居榊原風力発電施設・管理棟にて  
説明を受ける見学者

ける風を受け、高さ50mのタワーの上で直径50mの三枚の羽が「ビュンビュン」と音を立てて回転する様子は圧巻であり、参加者も皆上を見上げてしきりに感心するばかりであった。現地では、久居市役所総務部企画課の野田和弘課長から丁寧な説明を頂き、参加者からは活発な質問が次々として出て、一時間あまりの見学が大変短く感じられた。

今回の見学会は生憎の天候にも関わらず、大変快適でまた興味深かったと参加者から好評であった。これらは、きめ細やかなアレンジで格別のご配慮を頂いた近畿日本鉄道（株）日高憲一幹事（電気・昭46）、植谷信之氏（電子・昭58）のご尽力によるものであり、また雨の中丁寧な説明いただいた久居市役所の野田課長に感謝申し上げたい。

（尾崎雅則（電気・昭58、M60、D63）記）

## 平成12年度講演会

おとそ気分が抜けた平成13年1月19日（金）、新世紀一番乗りの講演会が開催された。「21世紀の人間生存圏の環境とエネルギー」を主テーマに、原研の谷啓二氏と地球環境産業技術研究機構の友田利正氏から講演が行われた。環境問題に関心が高まる中、講演会には総勢119名が出席して中央電気倶楽部のホールをほぼ埋め、引き続いて行われた懇親会にも39名の方が参加し盛況の内に終了した。

谷啓二氏の「地球シミュレータ計画とそのインパクト」の講演では、地球環境変動を予測するために基礎科学研究、観測網の整備、計算機シミュレーションを三位一体として進めていること、その一環としてピーク出力40TFLOPSの超高速のコンピューターを開発していることが紹介された。これが完成すれば気象災害予測の精度が飛躍的に向上すると期待されている。

友田利正氏の「地球再生のシナリオ 世界エネルギーモデルによる地球温暖化対策の評価」では世界エネルギーモデルに基づいて今後100年間のエネルギー需給を予測し、多様な技術を組み合わせれば大気中炭酸ガス濃度を抑制できることが示された。

どちらの講演に対しても熱心な質問が多く、参加者の環境・エネルギー問題に対する関心の高さを強く感じた。

感想を述べさせていただくとすれば、人集めなど大変な面もあったが、前例の無い行事なので工夫をする余地が大きく楽しくもあったことである。さらに若い人の参加が多かったことがとりわけ嬉しかった。

最後に計画の立案で何度も相談させていただいた藤井克彦会長および辻毅一郎総務幹事、運営に当たって

ご協力頂いた南浮泰造幹事（関西電力）および藤井治久幹事（三菱電機）、に厚くお礼申し上げます。

（疇地 宏（電気・D54）、

西村博明（電気・50、M52）記）

## 電気系卒業祝賀・謝恩会

平成12年度卒業式当日の平成13年3月23日午後6時から千里阪急ホテル千寿の間において卒業・祝賀謝恩会が執り行われた。学部及び大学院の新卒業生356名を始め、ご来賓、電気系教職員、濬電会役員の方々あわせて約500名の参加を得て大盛会であった。

式典は吉野勝美幹事（電気・昭39）の司会で進められ、藤井克彦濬電会会長（大阪大学名誉教授）（電気・昭28旧）、熊谷信昭氏（大阪大学元総長、名誉教授）（通信・昭28旧）、北田幹夫氏（関電興業（株）代表取締役社長）（電気・昭28新）、長岡良富氏（松下電器産業（株）取締役AVC社 副社長）（通信・昭39）、前田肇教授（通信工学専攻長）（通信・昭41）からご祝辞を頂いた。

藤井会長からは、デフレ、食糧、資源、産業構造、環境問題など日本に取って未経験の問題に直面し始めており、20世紀を先導してきた人達の考え方、手法では解決困難である。これらの解決は21世紀最初の卒業生諸君によって始めて可能であり、チャンスも多い。輝かしい世紀となるよう努力されたい、と激励の言葉があった。

熊谷先生からは、48年前卒業した当時あった全学部、工学部、理学部、医学部の全卒業生数と同じくらいの人数がこの電気系から卒業するようになったという感慨を述べられた後、先輩として格調は低いが大変なことを話そうと、チュラロンコン大学の例を出して人と人とのつながりが重要なこと、さらに、社会人としての心得として、名刺の受け渡しのマナー、立食パーティーでのマナー、葬式でのマナーなどについて、大変有益なお話があった。

北田氏からは人のつながり、人脈が極めて大切であることを例をまじえて話され、大量にたまってくる名刺をいかに整理し有効に活かすかを話された後、中国の古典でも、人物を選んでしかる後交わる、と云うことが云われているが、同窓会、濬電会は、既に選ばれた人の集団であるから、極めて重要なかけがえのないものであり、大阪大学の人脈を大事にしつつ、立派な業績をあげられることに期待すると激励された。

長岡氏からは、これまでの技術者は、産業、工業の進展、即、善と云うことで努力すれば良かったが、これからは、何が人に幸せをもたらすか、と云う思想的

とか哲学性を持った技術者が求められていること、また、創業者、源流の思想、考え方が反映されることを松下とS社（ソニー）を例に述べ、適塾と懐徳堂でありを源流とする大阪大学の卒業生は素晴らしいDNAを有していることになるので、自信と勇気を持って世界に大きく羽ばたいて欲しいと激励の言葉があった。

また、前田教授からは、20世紀を振り返ると、100年前は明治34年で日露間の雲行きが怪しくなり、国民は意識が高揚していた頃であり、既に海底ケーブルは始まっていたが、無線はまだ黎明期であり、それを考えるとこの20世紀は大変な技術の進展をみせてきたが、これから社会が卒業生達に期待していることは、報いられる確率の高いことに取り組むのではなく、成功するかどうかおぼつかないことであっても、何とかやろうと情熱を持って果敢に取り組むことであると述べ、卒業生の奮起を期待していることを話された。

支部からの祝電披露の後、続いて司会を尾崎雅則幹事（電気・昭58）に交代しパーティに移った。池田健濬電会副会長（近畿日本鉄道（株）副社長）（電気・昭30）のご発声で乾杯し、なごやかな歓談に入った。会場では卒業生、ご来賓、教職員、濬電会役員が賑やかに歓談し、大いに盛り上がった。

宴もたけなわの頃藤井会長より楠本賞、工学賞受賞者、税所真前、小林淳一、高橋知伸、竹原崇成および賞の次点者 常定扶美、松下陽介、吉田悠一、小林弘幸君への記念品の授与に続いて恒例となった福引き、餅つきが賑やかに行われた。

卒業生の代表として通信工学専攻の松井保憲君から教官および濬電会諸先輩への感謝と将来への決意が述べられた。

最後に、濱口副会長の力強い激励の言葉と万歳三唱をもってめでたく祝賀・謝恩会はお開きとなった。

ご多用中にもかかわらず、ご臨席賜りましたご来賓の方々、電気系職員の方々に厚く御礼申し上げます。濬電会の安井晴子様には献身的にこの会の準備にあたっていただき、また電気系秘書の方々、一部の学生諸君には準備・受付業務などをお手伝いいただきました。これらの方々に心より御礼申し上げます。今年も快く記念品、福引きの景品をご提供いただきました、（株）日立製作所、三菱電機（株）、オムロン（株）、関西電力（株）、近畿日本鉄道（株）、三洋電機（株）、シャープ（株）、住友電気工業（株）、（株）ダイヘン、（株）東芝、西日本旅客鉄道（株）、日本電気（株）、NTT西日本（株）、富士通（株）、松下電器産業（株）、に厚く御礼申し上げます。

（吉野勝美（電気・昭39、M41、D47）記）

## 平成 12 年度東京支部総会報告



平成 12 年度の電気会東京支部総会を 4 月 21 日（金）に銀座ラフィナートで開催した。今回は、総会幹事を NTT と NEC で行った。

本年もご多忙にも拘わらず、電気会本部より、藤井会長、池田副会長、谷口教授、事務局安井晴子様、および、今回初めて、基礎工学部より、宮原教授にご出席いただいた。また、東京地区会員約 2000 人の中から、84 名が出席して、会を盛り上げた。

出席者内訳	工学部	電気	25 名
		通信	39 名
		電子	16 名
	基礎工学部		4 名

総会に先立ち、スピーチの部では、藤井会長に講演いただき、たくさんの会員諸氏は、学生時代を思い起こしながら、熱心に拝聴した。

また、総会では、山本支部長の挨拶で始まり、池田副会長、谷口教授、宮原教授のご挨拶に続き、幹事会社として、NTT・今井氏、NEC・西谷氏が挨拶をし、藤井会長の音頭で乾杯を行った。

会場内では、S 22 年卒から H 11 年卒まで、幅広い同窓生が久しぶりに会った恩師の先生方との語らいや、級友との昔話に花が咲き、あっという間に時間が過ぎた。

最後に次回の幹事である富士通（株）・諫山氏と沖電気（株）・大西氏にご挨拶をいただき、来年の再会を約束してお開きとした。

（山元正人（電気・昭 53、M55）記）

## 平成 12 年度東海支部総会・見学会報告

6 月 17 日（土）、平成 12 年度電気会東海支部総会が名古屋市千種区の中部電力若竹クラブ 3 階ホールにて開催されました。ご来賓として電気会副会長の濱口智尋先生、総務幹事の辻毅一郎先生、ならびに事務局



の安井晴子様をお迎えし、佐治支部長をはじめ昭和 13 年卒から平成 7 年卒まで 23 名の参加者を得て、朝からの雨にも関わらず盛会となりました。

総会に先立ち、辻毅一郎教授により「都市エネルギーシステムの将来展望」という題目でご講演をいただきました。現在でも冷房は電力だけとは限らず、ガス冷房器も使われています。反対に、電力関連会社が LNG を販売するなど、業界の再編によってエネルギー産業における境界線には、急速に変化が起こり始めています。最近注目されているマイクロガスタービンの様な分散電源が都市部に浸透した場合に、エネルギー需要構造はどう変化して行くか、将来の都市部配電システムの形態はどうなっていくのか？そうした観点に立って将来の都市においては、電気・ガスを含む総合エネルギー設計が必要になることを強調され、未来の配電システムのあり方についてご説明いただきました。

続いて総会では、来賓の濱口先生から、阪大の現状などについてご紹介いただき、佐治支部長ご挨拶、江本幹事による東海支部の事業と会計報告、記念写真撮影を行いました。

会場を 2 階に移しての懇親会では、全員の近況報告としまして、最先端の半導体技術のお話から、ご趣味のスキーや水泳、オーディオのお話まで、多岐にわたる話題をご披露いただき、なごやかに会は終了しました。最後に吉本弘様（S13 電気）のご発声による万歳三唱で再会を誓い会いました。

11 月 3 日（金）東海支部では、三菱重工業株式会社殿のご協力を得て、名古屋空港近くの同社名古屋航空宇宙システム制作所の見学会を開催しました。小川工場長代理のご挨拶、工場紹介のビデオ上映の後、純国産最新鋭型対戦ヘリ（SH-80J）や、ライセンス生産を行う F-2 支援戦闘機の開発現場を見学しました。F-2 の、鋭利な刃物のような翼の輝きに魅せら



れたり、間近で見るとまるで観光バスのような大きさの大型輸送用ヘリの迫力に圧倒されたり、またコースの最後には記念館の零戦（復元機）を前に昔話に花を咲かせる場面あり、まさに盛沢山の短い2時間でした。  
（高田 亨（電気・昭60）記）

### 平成12年度北陸支部総会報告



平成12年度滯電会北陸支部第11回総会は8月26日（土）午後富山県八尾町にある（株）富山富士通研修室において、総勢28名の参加を得て開催された。来賓として尾崎弘元会長および櫻井良文元会長、本部より藤井克彦会長、濱口智尋副会長、事務局安井晴子様のご出席を頂いた。総会では、満保支部長の開会挨拶の後、平成11年度の行事・会計報告に続いて役員改選があり、白藤純嗣支部長（電気・昭34）以下6名の幹事が指名・承認された。平成12年度の行事予定・予算の承認に引き続き、藤井会長、濱口副会長から、学外見学会開催計画・講演会企画・滯電会名簿発行・ホームページ開設など本部行事予定を含め近況報告があった。

総会に引き続き、富山富士通森野元庸社長（電子・昭38卒）から、会社の事業内容の紹介があり、工場案

内が行われた。富山富士通は富士通グループ内の基幹情報システムの運用拠点となっているほか、ソフトウェアの研究・開発・販売、インターネットビジネスなどを行っているとのことである。

総会・見学会の後、場所を変えて懇親会に移った。懇親会には来賓および会員のご夫人3人も参加された。白藤新支部長の挨拶、尾崎元会長のご挨拶の後、櫻井元会長のご発声による乾杯、さらにご来賓の方々へ一言ずつご挨拶を頂いた。来賓と会員、会員相互で話が弾み、盛会裏に懇親会を終えた。

富山富士通が立地している富山県八尾町は“おわら風の盆”で全国的に有名である。おわら風の盆は二百十日頃の9月1日～3日の三日三晩、格子戸に古い町並みの面影を残す八尾町の町中を、豊穰等を祝って踊り明かす行事であり、約25万人の観光客が訪れるという。8月20日～30日は前夜祭の期間で、曳山展示館ホールでのおわらの紹介後おわら町流しが行われる。

我々を含め溢れんばかりの観客が押しかけたホールでは、①おわら風の盆の映画上映、②おわら踊り方教室、③おわら踊りの実演が行われた。②では豊年踊りの指導が行われ、③では三味線と胡弓に合せて唄う独特の節回しの甲高い越中おわら節や囃子に合わせて優雅に踊るおわらを鑑賞した。

引続き行われたおわら町流しの見学は町の雑踏を避けるため取りやめ、ホール内の長い歴史を誇る曳山の展示を見学し、富山駅までバスで出た後、当日中に帰宅する人、ホテルに宿泊する人に別れて解散した。

最後に、総会会場と工場見学、および懇親会場とおわら風の盆見学のお世話をいただいた富山富士通森野社長はじめ関係者の皆様に紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。  
（木谷 博（電子・昭37）記）

### 平成12年度九州支部総会・見学会報告



滯電会九州支部は1992年の発足以来、福岡、大分、

沖繩、熊本、福岡、福岡、長崎、福岡と場所を移して会を持ち、その第9回目の支部総会・見学会を2000年10月28日(土)に福岡県柳川で開催しました。

今回は、本部より藤井克彦先生、櫻井良文先生、濱口智尋先生御夫妻、白川 功先生、辻 毅一郎先生、安井晴子様、また支部会員(敬称略)の河村寿三(気S29)、村田 忠(通S32)、加藤 治郎(気S36)、生地文也(元教官)、坂口真一(子S38)、金藤敬一(気S46)、武石泰亮(信S54ハ号)、内藤正路(子H1)、服部励治(気S61)、河合 壮(元教官)、宮尾 正信(基礎工)、小森望充(福岡工業大学)の各氏にご参加頂きました。

総会・懇親会の場となった「御花」は元禄10年柳川城主立花家の別邸として造られたものでありますが、柳川観光の中心として当日も観光客、結婚式で大変にぎわっていました。午後2時より、御花の会議室で行われた総会は河村支部長挨拶、藤井会長のご挨拶と滯電会の今後のあり方についてのご説明の後、九州支部の事業と会計報告を承認し、閉会しました。引き続き講演会では濱口智尋先生から、「エレクトロニクス時代を築いた天才科学者達」と題して、ガルバーニによる「カエルの脚から電気が発生する」という実験からはじまり、今年度の白川秀樹博士のノーベル化学賞受賞までの電気・電子工学の歴史を先生が集められた数多くの写真と共に紹介していただき、大変興味深く聞かせていただきました。その後、見学会としての柳川名物の川くだりを一艘の船を貸しきりみんなで楽しみました。その日は一日中雨が降っていたのですが、この時だけは運良く雨が上がり、船頭さんの大変楽しい案内とともに、風情ある柳川の歴史と情緒に触れ合うことができました。懇親会は近くの有明海でとれた海の幸や名物の鰻のセイロ蒸しを賞味し、何時ものように大変楽しい時間を過ごしました。

翌29日(日)、4名がゴルフに興じ、他に柳川歴史散歩を楽しんで、柳川での滯電会を締めくくりました。

なお、来年度は九州支部創立10周年にあたり規模を拡大して総会・講演会を開催する予定ですので会員皆様のご参加と協力をお願いいたします。

(服部 励治(電気・昭61、63)記)

### 平成12年度中国支部総会報告

滯電会中国支部は、12月2日(土)に支部総会を広島ガーデンパレスにおいて開催しました。

本部より、櫻井良文元会長、藤井克彦会長、事務局安井晴子様をご来賓としてお迎えし、基礎工学部電気卒業者を含め総勢23名の参加となりました。



総会は岩川支部長の挨拶から始まり、藤井会長から挨拶及び母校の近況についてご紹介頂きました。

続いて議事に入り支部の平成11年度の事業報告について全会一致で承認されました。最後に参加者全員で記念写真撮影を行い、総会は無事に終了しました。

総会に続いて、本年度は滯電会会長の藤井先生より「21世紀に向けた技術開発」と題した講演を行っていただきました。これからの大学や製造業に求められているのは世界を視野に入れた企画や今までの成功例にとらわれない新しい発想・アイディアが必要でありそのためにも7,000人を越す専門家の集団である滯電会を情報交換の場として大いに活用すべきである。といったお話を頂き、講演後も参加者からの活発な質疑がありました。

総会、講演会の終了後、会場をキリンビアパーク広島に移し、キリンビール広島工場の歴史やビールの製造工程の見学を行いました。見学の後、レストランにて懇親会に移り桜井元会長の乾杯の音頭により懇談に入りました。参加者全員による自己紹介・近況報告を含め、懐かしい話に花が咲き、あっと言う間に時間が経過し盛会のうちに来年の再会を期して散会となりました。(高森 功(電気・平3、M5)記)

### 平成12年度滯電会ゴルフ例会報告

滯電会ゴルフ例会は、平成12年度で91回の開催を誇る、滯電会内の親睦を図る伝統的なゴルフコンペで、昨年度も春秋の二回、三田市郊外の武庫ノ台ゴルフコースで開催されました。

コンペは、一般の部とシニアの部(満年齢65才以上)の部に分けて優勝を競われています。昨年度の結果は以下の通りとなりました。

	第90回	第91回
開催日	H12. 6. 17 (土)	H12. 11. 25 (土)
参加者数	3組10名	3組10名
一般の部 優勝	西尾章治郎(教官) gross 94 H. C. 25 net 69	西馬 重幸(電28) gross 79(ベスグロ) H. C. 6 net 73
シニアの部 優勝	白藤 純嗣(電34) gross 95 H. C. 12 net 83	白藤 純嗣(電34) gross 93 H. C. 9 net 84

通算第90回となった節目の例会は、生憎の天候でしたが、毎回出場していただいている最高齢の池田さん(電16)をはじめ途中で止めることなく、最後まで楽しくプレイしていただきました。一般の部では西尾さんが、シニアの部で白藤さんがそれぞれ優勝されました。第91回は、藤井会長にもご出席いただき、好天のもと、美しい紅葉を眺めながらのコンペとなりました。一般の部は昨年の秋の例会に続き、ベスグロも獲得された西馬さん、シニアの部では白藤さんが連続優勝されました。

楽しくゴルフを終えた会食の場で、会長からは、伝統もあり、滞電会で唯一のスポーツの親睦の場、メンバーの親睦の場として積極的に友人とともに参加し活用を、とのお言葉をいただきました。表彰式の後、両優勝者のお話を始め、ゴルフの話で盛り上がる中、次



回は同期の友人を誘い合わせのうえ、出席を誓い合い、三々五々帰途につきました。

今年度につきましても昨年同様、6月16日(土)、11月24日(土)の2回開催を予定しております。場所は、武庫の台ゴルフコースで、それぞれ7組(28名)ご用意しております。お申し込みは、はがきにお名前、卒業学科、卒業年次、連絡先(住所、郵便番号、電話番号)をご記入の上、滞電会事務局にご連絡下さい。同期の方などと一緒に回るなど、ご希望がございましたら、はがきにその旨、追記していただければ極力配慮させていただきますので、お誘い合わせの上、ふるってご参加頂きますようご案内いたします。ご参考までに、参加費は¥27,000円、先着28名様までお受けさせていただきます。

(野田正信(電気・昭56)記)

## ご 寄 付

以下の方々からご寄付を頂いております(平成13年4月19日現在)。ここに記して厚く御礼申し上げます。

### 定年退官教授寄付

西原 浩 様 (通信・昭35) ¥50,000  
濱口 智尋 様 (電気・昭36) ¥50,000

### 一般寄付

大川進一郎 様 (電気・昭32) ¥4,000

桑田登一郎 様 (通信・昭35) ¥4,000  
小川 丈三 様 (通信・昭41) ¥4,000  
佐々木三郎 様 (電気・昭44) ¥4,000  
青海 恵之 様 (通信・昭44) ¥4,000  
柴田 秀樹 様 (電子・昭48) ¥4,000  
和田 健一 様 (電気・昭49) ¥4,000  
永川 俊明 様 (電子・昭50) ¥4,000  
柳垂 信雅 様 (通信・昭52) ¥4,000

### 名簿寄付

藤本 三治 様 ¥2,000  
善波 正夫 様 ¥2,000  
西村正太郎 様 ¥2,000

小山 次郎 様		¥ 2,000	澤村 武男 様	(電気・S20)	¥ 2,000
千田 眞治 様	(電気・T12)	¥ 3,000	中 輝彦 様	(電気・S20)	¥ 2,000
越智 兼好 様	(電気・S04)	¥ 2,000	樋口 正樹 様	(電気・S20)	¥ 2,000
加藤 清直 様	(電気・S04)	¥ 5,000	清野 浩 様	(通信・S20)	¥ 3,000
石田 勝蔵 様	(電気・S05)	¥ 2,000	九里 聖敏 様	(通信・S20)	¥ 2,000
草野 光男 様	(電気・S06)	¥ 2,000	斉藤 博 様	(通信・S20)	¥ 2,000
郡 喜与之 様	(電気・S06)	¥ 2,000	滑川 敏彦 様	(通信・S20)	¥ 2,000
松尾 徹 様	(電気・S10)	¥ 2,000	飯田 正博 様	(電気・S21)	¥ 2,000
宮越 一雄 様	(電気・S10)	¥ 2,000	小門 博 様	(電気・S21)	¥ 2,000
遠藤 常忠 様	(電気・S13)	¥ 2,000	後藤田 昇 様	(電気・S21)	¥ 2,000
尾形 秀人 様	(電気・S13)	¥ 2,000	曾原 一郎 様	(電気・S21)	¥ 2,000
新林 茂 様	(電気・S13)	¥ 2,000	平野新太郎 様	(電気・S21)	¥10,000
吉本 弘 様	(電気・S13)	¥ 2,000	入江 則公 様	(通信・S21)	¥ 2,000
中村日出男 様	(電気・S14)	¥ 2,000	来住 徹 様	(通信・S21)	¥ 5,000
東野 俊一 様	(電気・S15)	¥ 2,000	谷 禎二 様	(通信・S21)	¥ 2,000
池田 盈造 様	(電気・S16)	¥ 2,000	永見 剛一 様	(通信・S21)	¥ 5,000
山崎 廣介 様	(電気・S16)	¥ 2,000	行徳 直道 様	(電気・S22)	¥ 2,000
足立 傳 様	(電気・S16)	¥ 3,000	倉岡 澄 様	(電気・S22)	¥ 2,000
小池 吉郎 様	(電気・S16)	¥ 2,000	小林啓次郎 様	(電気・S22)	¥10,000
松浪 昭夫 様	(電気・S16)	¥ 2,000	西野 博二 様	(電気・S22)	¥ 2,000
宮川 宗就 様	(電気・S16)	¥ 2,000	丸橋 徹 様	(電気・S22)	¥ 2,000
横井 清 様	(電気・S16)	¥ 2,000	山崎松次郎 様	(電気・S22)	¥ 2,000
伊地知昇平 様	(電気・S17)	¥ 3,000	穴田 久敬 様	(通信・S22)	¥ 2,000
大木 正路 様	(電気・S17)	¥ 5,000	小川 達雄 様	(通信・S22)	¥ 2,000
奥田 滋 様	(電気・S17)	¥ 2,000	小島 卓哉 様	(通信・S22)	¥ 2,000
谷口 義雄 様	(電気・S17)	¥ 2,000	高迫 時男 様	(通信・S22)	¥ 2,000
遠山 常雄 様	(電気・S17)	¥ 2,000	近 晃一郎 様	(通信・S22)	¥ 2,000
早尾 卓 様	(電気・S17)	¥ 2,000	田中 純吉 様	(通信・S22)	¥ 2,000
荒川孝一郎 様	(通信・S17)	¥ 2,000	中尾 五郎 様	(通信・S22)	¥ 2,000
中嶋 勉 様	(電気・S18)	¥ 2,000	深津 啓典 様	(通信・S22)	¥ 2,000
日並 太郎 様	(電気・S18)	¥ 3,000	吉川喜八郎 様	(通信・S22)	¥ 2,000
平山 照行 様	(電気・S18)	¥ 2,000	相田 襄治 様	(電気・S23)	¥ 2,000
山下 道照 様	(電気・S18)	¥ 2,000	石田 良彦 様	(電気・S23)	¥ 2,000
山田 正保 様	(電気・S18)	¥ 5,000	織田 治也 様	(電気・S23)	¥ 2,000
原田 安雄 様	(通信・S18)	¥ 2,000	太田 義一 様	(電気・S23)	¥ 5,000
松田 三郎 様	(通信・S18)	¥ 2,000	岡田 昌治 様	(電気・S23)	¥ 2,000
村松 金也 様	(通信・S18)	¥ 2,000	菊池 純男 様	(電気・S23)	¥ 2,000
東 弘信 様	(電気・S19)	¥ 3,000	佐伯 親謙 様	(電気・S23)	¥ 2,000
大石 政智 様	(電気・S19)	¥ 2,000	嶋 裕史 様	(電気・S23)	¥ 2,000
柴田 健 様	(電気・S19)	¥ 2,000	鈴木 収 様	(電気・S23)	¥ 2,000
中村 正躬 様	(通信・S19)	¥ 2,000	棚川 久 様	(電気・S23)	¥ 2,000
水谷 博 様	(通信・S19)	¥ 3,000	中村 潔 様	(電気・S23)	¥ 2,000
大山 一良 様	(電気・S20)	¥ 2,000	藤尾 日丸 様	(電気・S23)	¥ 2,000
佐藤 光明 様	(電気・S20)	¥ 2,000	正木 勇二 様	(電気・S23)	¥ 2,000

三上 彦三 様	(電気・S23)	¥ 2,000	下井 厚雄 様	(電気・S26)	¥ 2,000
山中千代衛 様	(電気・S23)	¥ 2,000	田中 輝男 様	(電気・S26)	¥ 2,000
北村 栄喜 様	(通信・S23)	¥ 3,000	対尾準三郎 様	(電気・S26)	¥ 2,000
河野 哲朗 様	(通信・S23)	¥ 2,000	納谷 嘉信 様	(電気・S26)	¥ 5,000
佐野 芳男 様	(通信・S23)	¥ 2,000	永田敬太郎 様	(電気・S26)	¥ 2,000
庄司菊太郎 様	(通信・S23)	¥ 2,000	比屋根方健 様	(電気・S26)	¥ 5,000
杉浦 寅彦 様	(通信・S23)	¥ 3,000	本田 茂 様	(電気・S26)	¥ 2,000
田中 恒久 様	(通信・S23)	¥ 2,000	三宅康一郎 様	(電気・S26)	¥ 3,000
秦野 任史 様	(通信・S23)	¥ 2,000	宮本 利典 様	(電気・S26)	¥ 2,000
平野 嘉一 様	(通信・S23)	¥ 2,000	毛利 三郎 様	(電気・S26)	¥ 2,000
横田 誠介 様	(通信・S23)	¥ 2,000	北村 雅義 様	(電気・S26)	¥ 2,000
荒巻 恭士 様	(電気・S24)	¥10,000	浅居喜代治 様	(通信・S26)	¥ 2,000
金野 武司 様	(電気・S24)	¥ 2,000	市川 洋 様	(通信・S26)	¥ 3,000
佐内 重正 様	(電気・S24)	¥ 2,000	金田 重男 様	(通信・S26)	¥ 2,000
中川 隆二 様	(電気・S24)	¥ 3,000	佐藤 義信 様	(通信・S26)	¥ 3,000
業天 正文 様	(通信・S24)	¥ 2,000	長岡 崇雄 様	(通信・S26)	¥ 2,000
曾我部秀一 様	(通信・S24)	¥ 5,000	原 鎮男 様	(通信・S26)	¥ 2,000
寺西 由行 様	(通信・S24)	¥ 2,000	藤原 潤一 様	(通信・S26)	¥10,000
長谷川 巖 様	(通信・S24)	¥ 2,000	山縣 保 様	(通信・S26)	¥ 2,000
古沢 敏雄 様	(通信・S24)	¥ 2,000	市井 俊夫 様	(電気・S27)	¥ 2,000
村田 保 様	(通信・S24)	¥ 3,000	岩崎 雄一 様	(電気・S27)	¥ 2,000
山根 信義 様	(通信・S24)	¥ 2,000	大内 博 様	(電気・S27)	¥ 2,000
六島 昭治 様	(通信・S24)	¥ 2,000	粕谷欽次郎 様	(電気・S27)	¥ 3,000
赤松 博夫 様	(電気・S25)	¥ 2,000	喜多村幸蔵 様	(電気・S27)	¥ 2,000
岩田淳三郎 様	(電気・S25)	¥ 2,000	末内 潔 様	(電気・S27)	¥ 2,000
門脇 泰彦 様	(電気・S25)	¥ 2,000	杉野 淳 様	(電気・S27)	¥ 3,000
金子 壽三 様	(電気・S25)	¥ 2,000	林 明生 様	(電気・S27)	¥ 2,000
楠田 哲三 様	(電気・S25)	¥ 3,000	山本 滋 様	(電気・S27)	¥ 2,000
新保 純生 様	(電気・S25)	¥ 2,000	米田 博明 様	(電気・S27)	¥ 2,000
杉本 彰 様	(電気・S25)	¥ 2,000	渡辺 義和 様	(電気・S27)	¥ 2,000
辰巳 博 様	(電気・S25)	¥ 2,000	伊藤 正夫 様	(通信・S27)	¥ 2,000
辻 良夫 様	(電気・S25)	¥ 2,000	尾島 義朗 様	(通信・S27)	¥ 2,000
成松 啓二 様	(電気・S25)	¥ 5,000	要 祐一 様	(通信・S27)	¥ 3,000
福尾 進 様	(電気・S25)	¥ 2,000	滝沢 武 様	(通信・S27)	¥ 2,000
石原 嘉夫 様	(通信・S25)	¥ 2,000	竹村 一 様	(通信・S27)	¥ 2,000
笠井 保 様	(通信・S25)	¥ 2,000	中西 義郎 様	(通信・S27)	¥ 5,000
黒川 善治 様	(通信・S25)	¥10,000	村田 良雄 様	(通信・S27)	¥ 2,000
桑田 徳治 様	(通信・S25)	¥ 2,000	毛利 悦造 様	(通信・S27)	¥ 5,000
高岸 宗吾 様	(通信・S25)	¥ 2,000	山下 一美 様	(通信・S27)	¥ 2,000
竹内 信雄 様	(通信・S25)	¥12,000	江浦 俊夫 様	(通信・S27)	¥ 2,000
中村 勝吾 様	(通信・S25)	¥ 2,000	小川 出 様	(電子・S48)	¥ 4,000
今村 謙一 様	(電気・S26)	¥ 2,000	伊藤 寧夫 様	(電子・S52)	¥ 4,000
絹川 泰正 様	(電気・S26)	¥ 2,000	山野 弘喜 様	(情シス・H05)	¥ 4,000
栗山 宏 様	(電気・S26)	¥ 3,000			

## 平成 12 年度総会・懇親会



総会：新役員紹介



スピーチ 大阪大学附属図書館長 西原 浩先生  
(演題：マルチメディア時代の大学図書館)

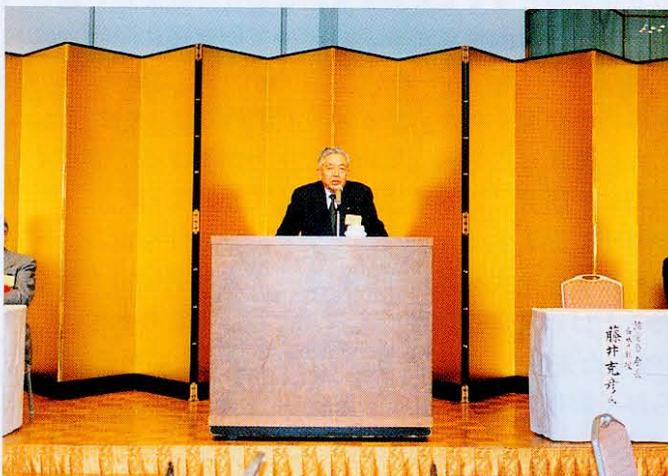


懇親会のひとこま



懇親会：乾杯 滞電会前会長 北田幹夫氏

## 平成 12 年度卒業祝賀・謝恩会



会長祝辞



楠本賞・工学賞受賞者と次点者に賞品授与



餅つき



万歳三唱



卒業生代表挨拶

(松井保憲君 (通信・博士前期課程))

#### 卒業生代表挨拶文

本日、このような盛大な卒業祝賀会を挙げて頂きましたことを、心より御礼申し上げます。また、諸先生方、ならびにご来賓の皆様からは、ご祝辞、励ましのお言葉を頂戴し、卒業生一同、感謝の念でいっぱいでございます。本日頂きましたお言葉を忘れることなく、今後も何事にも全力で取り組んでいきたいと思っております。

時の経つのは早いもので、私が大阪大学に入学してから6年が経とうとしています。この6年間を思い返しますと、友人との語らいやクラブ活動など楽しい思い出の一方で、4回生になり、はじめて研究室に配属されたときの驚きと戸惑いを思い出さずにいられません。

研究室に配属された当初、輪講で先生や先輩方が話される内容が全くわからず、不安な気持ちになりました。また、研究が始まってからも右往左往する日々が続きました。そんなとき、先輩方や先生方が下さるアドバイスや励ましの言葉が、私の気持ちを楽にしてくれると同時に、研究に対する意識を変えてくれました。

さて、私が大学で学んだ最も大きなことは、自ら考え創り出し発表するということです。独創性を育み、何か新しいものを生み出し、それを発表するということは、今後更に研究を続ける者にとっても社会に出て働く者にとっても重要なことであり、大学でそれを経験できたことは非常に有意義であったと思っております。

最後になりましたが、今日まで熱心に御指導して下さいました先生方、何かとお世話になりました職員の方々、そして温かく見守って下さいました家族や友人達に心から厚くお礼申し上げます。

母校のますますの発展と皆様のご健勝を、卒業生一同、心から祈念致しまして、謝辞とさせていただきます。

平成13年3月23日

卒業生代表 通信工学専攻 博士前期課程 松井 保憲

# 滞電会 会則

## 会 則

- 第 1 条 本会は滞電会と称する。
- 第 2 条 本会は事務局を大阪大学大学院工学研究科電気系内に置く。
- 第 3 条 本会は会員の親睦を図り、学術の発展および科学技術に関する知識の啓発に寄与することを目的とし、そのため適宜必要な事業を行う。
- 第 4 条 本会の会員はつぎのとおりとする。
- (1) 正会員
    - イ. 大阪大学工学部および工学研究科ならびにその前身である学校の電気系卒業生。
    - ロ. 大阪大学工学部および工学研究科の電気系教官。
    - ハ. 大阪大学工学部電気系教官主査のもとで学位を得た者で、本会に入会を希望する者。
  - ニ. 特に本会に縁故があり、役員会の承認を得た者。
- (2) 特別会員  
正会員以外で大阪大学工学部電気系の教授、助教授および講師であった者ならびに特にこの会に縁故のある者。
- (3) 学生会員  
大阪大学工学部および工学研究科の電気系学生
- (4) 賛助会員  
本会の活動を援助する法人または個人
- 第 5 条 本会に次の役員、委員を置く。  
会長 1 名  
副会長、幹事、クラス委員

- 第 6 条 会長は総会の議を経て選出する。副会長、幹事については会長が指名し、総会で承認を得る。クラス委員については学科別卒業年度別に選出する。
- 第 7 条 会長は本会の会務を総括し、本会を代表する。副会長は会長を補佐する。
- 第 8 条 会長、副会長、幹事は役員会を組織し、会務を処理する。クラス委員はクラスを代表し、本会に関する重要事項の相談にあずかる。
- 第 9 条 役員会の推薦により、本会に顧問を置くことができる。
- 第 10 条 役員任期は 2 年とする。ただし、重任はさまたげない。
- 第 11 条 定期総会は年 1 回開催する。臨時総会は必要に応じて開催する。定期総会では事業報告、会計報告および役員改選その他の議事を行う。
- 第 12 条 本会の事業年度、会計年度は毎年 6 月 1 日に始まり、翌年 5 月 31 日に終る。
- 第 13 条 正会員は別に定めた規定により、会費を毎年 7 月末日までに納入しなければならない。
- 第 14 条 本会は必要に応じて支部を置くことができる。
- 第 15 条 本会則の変更は総会の議を経て行う。

## 細 則

- 会費は年額 4,000 円とする。  
(平成 7 年度より実施)
- 大学学部卒業時から 48 年を経過した会員は、会費の納入を要しない。  
(平成 3 年度より実施)

## 編集後記

新世紀を迎えて最初の会報「滯電」をここにお届けいたします。

何事にも常に変革が求められている昨今、滯電会では平成12年度は講演会を新たに企画いたしました。会報「滯電」では、平成11年度にA4版を行い、文字も写真も見易くなりました。また重量増加による配送費の増加を避けるため「メール便」での発送を行いました。平成12年度ではさらに、会長の言葉の「楽しく役に立つ」をモットーに全体構成の見直しを実施いたしました。すなわち、「話題」のページの増加を行うと同時に、平成13年1月に実施いたしました講演会の概要を全会員へお伝えするべく講演会の内容を「講演会からの話題」として記事にいたしました。また、記事の配置に工夫をす

ると同時に一部カラー化を実施し、「読んでみたい」という気持ちがおきる会誌にするよう配慮いたしました。滯電会全会員へ年1回届けられる重要な会誌でありますので、何かと忙しくて母校から疎遠になりがちの方々におかれましても本会誌を読まれ、母校の様子、先生方や同窓生の近況等を知っていただくことができれば、と思います。本会誌が新しい情報や考えを得る一つの源となり、また「人と人のつながり」のお役に少しでも立てれば幸いです。

最後になりましたが、ご多忙中にもかかわらず玉稿をご執筆いただきました方々、ならびに記事の情報収集にご協力いただきました電気系事務の方々をはじめ皆様に、厚く御礼申し上げます。

(編集幹事：伊瀬敏史、赤澤堅造)

## お願い

「メール便」では転居先への転送がなされませんので、ご住所・ご勤務先などが変更になられた方は是非とも事務局まで、遅れることなくご連絡くださるようお願いいたします。変更のご連絡は同封いたしました総会の出欠届、平成12年11月に発行いたしました「滯電会会員名簿」に綴じ込みの「訂正カード」、またはファックス、電子メールでも結構です。

また、会員の受賞の情報、同窓会の開催記事などがございましたら、併せて事務局までお知らせください。出来る限り、本会誌に掲載させていただきます。

## 発行 滯電会

〒565-0871 吹田市山田丘2-1

大阪大学大学院工学研究科電気系内

電話：06-6879-7789 (ダイヤルイン)

ファックス：06-6879-7774

電子メール：reiden@pwr.eng.osaka-u.ac.jp

ホームページ：http://www-reiden.ise.eng.osaka-u.ac.jp